

82
120

位伯爵鷺尾隆聚公題字

正三位子爵海江田信義君題字

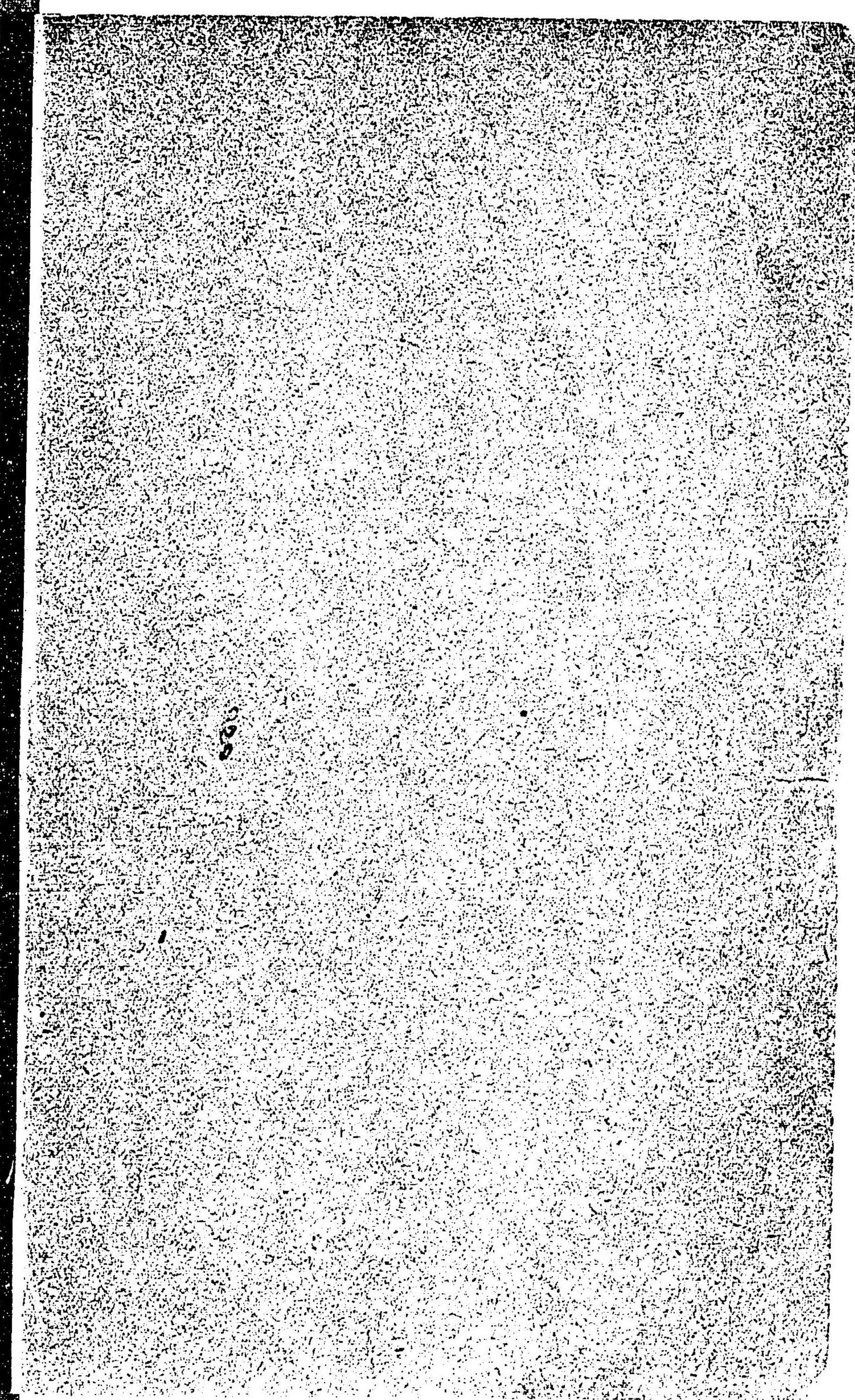
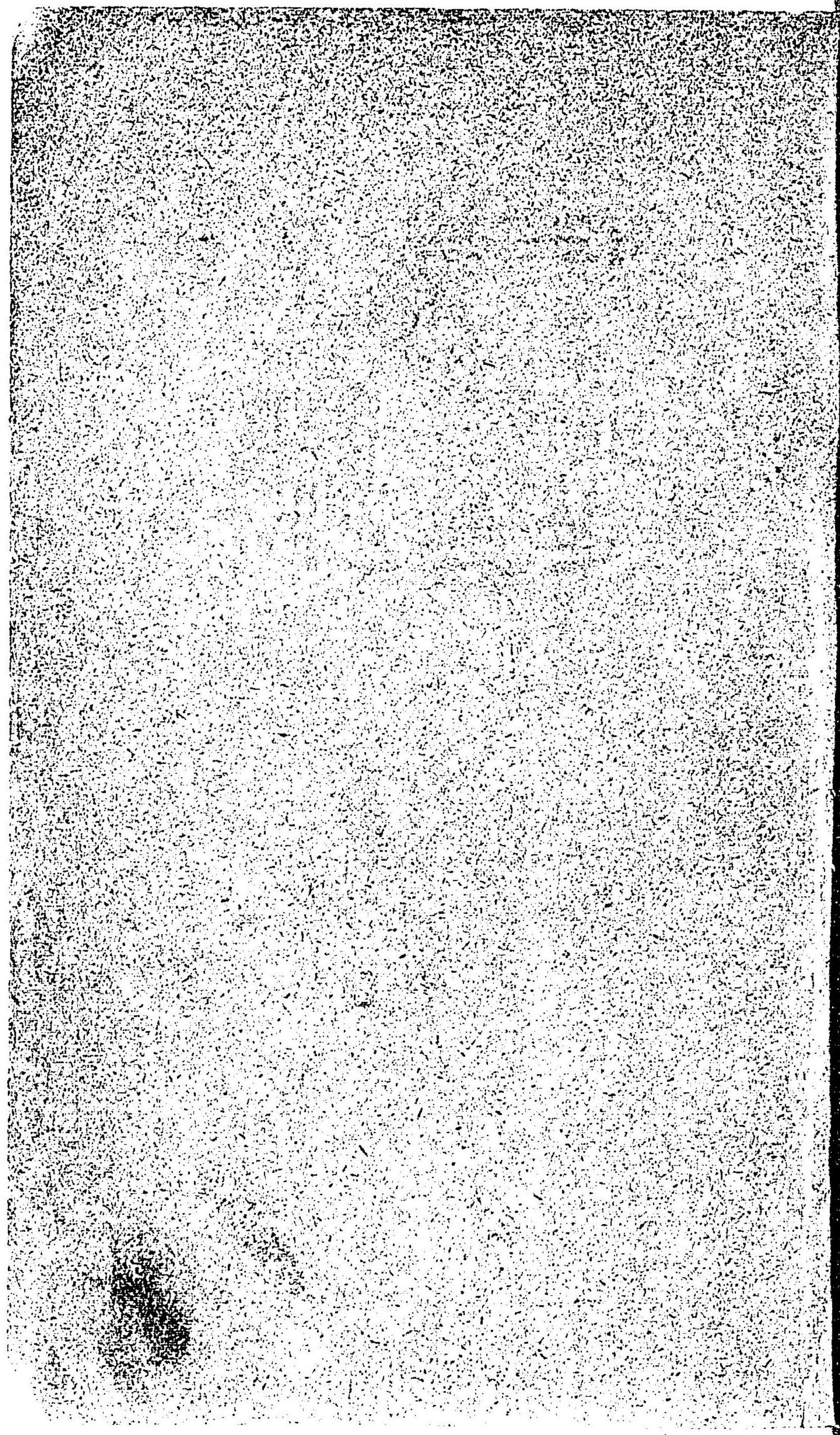
日本中學校長杉浦重剛先生序題

早繩 柔術練習圖解

全

一名 警視拳法

柔術教師 故久富鐵太郎先生序文
演武館長 今泉八郎先生跋文
畫工 安達吟光先生摸寫
柔術教師 井口松之助著述



草书大字，内容为“明”字，笔势流畅，墨色浓黑。背景有浅淡的篆书文字。

明

草书大字，内容为“月”字，笔势流畅，墨色浓黑。

明

山

水

印

福

福

福

福



白
得

枝
成



心三位隆聚



無恃其不來

待吾有以待

也

右孫子之語
天公以通士題

早繩
活法

拳法教範圖解序

老生前年警視ニ奉職ノ頃大ニ感スル處アリ從
來嗜ム處ノ柔道ヲ以警官ナル人ヲシテ常ニ講
セシメ惡漢不呈之徒ニ會シ職權執行ノ際ニ備
エシ事ヲ測リ當時長官ニ具申ス長官之ヲ嘉シ
採用スル處トナリ則各署員ヲシテ公務ノ餘暇
講習セシム爾來其功不少然ルニ職員ノ内從來
其技ニ長スルモノ多クハ其流派ヲ尊奉シ我流

ヲ講習スルニ圓滑ナラサル處アリ老生之ヲ憂
ヒ各員之内三拾餘名ヲ本署ニ會シ其法ヲ論シ
各得意ノ技ヲ講セシメ内一二ヲ拔擢シ十六種
ノ形手ヲ編製シ各署員ヲシテ之ヲ講セシメ依
テ太ニ協和スルヲ得タリ故ニ老生之ヲ一ノ書
冊トナシ名付テ拳法圖解ト稱シ各位ニ頒ツ爾
來今日ニ至レリ然ルニ井ノ口氏始メ該術ノ師
家今泉先生此技ヲ修正再刊センコトヲ老生ニ請

フ此書タルヤ素ヨリ一時和同ノ爲メ編製セシ
モノニシテ後來ニ流傳ス可キモノニアラス然
リト雖モ其請所切ニシテ止マス依テ後人ノ笑
ヲ顧ス今泉氏ヲ始メ井ノ口氏ト會シ二三ノ修
正ヲナシ其好意ノ在ル處ニ任ス讀者諸君此意
ヲ了セラレンコトヲ希望ス

明治三十一年五月

久富鐵太郎識ス

活早繩拳法教範圖解總目錄

- ◎體勢圖解
- ◎距離圖解
- ◎同解柄止
- ◎拳法見合取
- ◎同腕止
- ◎同摺込
- ◎同帶引
- ◎行連 右突込
- ◎行連 右壁副
- ◎陽ノ離
- ◎釣繩圖解

- ◎體構圖解(一名與ノ位圖)
- ◎拳法圖解柄取
- ◎同柄擲
- ◎同片手胸取
- ◎同襟投
- ◎同敵ノ先
- ◎行連 左上頭
- ◎行連 左右腰投
- ◎行連 後口捕
- ◎早繩捕繩ノ說並ニ注意
- ◎早繩捕繩掛圖解各種

- ◎繩掛之心得圖解
- ◎活法注意說明
- ◎同心愈圖解
- ◎同膽愈圖解
- ◎同心臟圖解

- ◎三寸繩圖解
- ◎同不容巨關圖解
- ◎同誘圖解
- ◎同襟法圖解
- ◎同裏法圖解

二

活早繩 拳法教範圖解總目錄終

活早繩 拳法教範圖解

編者 井口松之助

緒言

該書ノ起稿ハ明治拾七年ヨリ同拾九年凡三ケ年間警視廳ニ於テ其頃久富鐵太郎先生ヲ初メ各柔術家拾六流議ヨリ卅有餘名ノ世話掛ノ妙手ヲ撰擧シ其後既ニ久富先生書冊ニ成サシタル共充分ニ至ラズ故ニ今回更ニ同先生ノ望ミノ儘ニ綴リ我全國一般ノ警官軍人ニ及諸學校教師生徒ニ至迄モ此形ヲ廣大ニ弘メ度キコト余ニ教傳ノ話ヲ受タル故余ハ書肆ヲ以テ營業ヲナスト云共幼少ヨリ武術ヲ好ミ幸ニ而テ久富先生ヲ初今泉八郎先生其他各先生ニ教導ヲ受テ尙畫師安達吟光先生腕ヲ振ヒ謹テ摸寫ヲナシ筆ニ儘難キ處ハ畫以テ解シヨク其見易キ爲前後左右ヨリ寫生ヲナシ數日ヲ以テ綴リタル拳法形ト早繩活法ニ至迄モ記載ナシタリ最モ余ハ先ニ柔術劍棒圖解ニ及武道圖解秘訣又柔術極意教授圖解ヲ出版シ最近ノ書ニハ死活自在 活法柔術生理書ヲ著シ大高評ヲ博シ尙刀流 習劍舞圖解

教範ヲ出版シタレバ余ガ著ス出版書ハ他ノ編輯者ト違ヒ實地活用的ナ
 旨トシ諸學校生徒ニモ一讀スレバ圖解ヲ見ルバカリニテモ先生不入ノ
 獨學ニ出來様組立アル故ニ此拳法ハ軍人警官ニ及町道場ノ諸先生ニ至
 ル迄モ開讀スレバ忘レタル處ハ覺ヘ又武術ヲ知サル者ハ千萬ノ力ヲ得
 ル護身術ノ助ニナルヲ僅ノ時日ヲ費テ卒業スルノ法ヲ以テ余ガ苦心
 ナシタル處ヲ講讀諸君ヨ猶余ノ心切實地ヲ障セラレント望ム 最モ
 此書ヲ以テ解シ難キ者ハ軍人警官ニ限り無謝儀ニテ教導ヲナスヲ許
 ス 下谷區同朋町角今泉演武館神田區錦町二丁目吉田柳真館ニ於テモ
 著者ガ教授ヲスヲ得最近出版物ハ 各流 劍術極意教授圖解ヲ出版ナス尙
 此書中ニモ警視ノ劍術ノ形アリ出版ノ切ハ尙高評ヲ乞 余ハ最モ無學
 ニシテ文章ノ熟セザル處ニ及字句ノ誤リ重言等モ有之ハ實地的ヲ專務
 ニナス故ニ諸君之ヲ諒セヨ

明治三十一年四月下旬

源義爲謹白

體勢圖解 正面直立之圖

總テ柔術ノ教ハ體勢ヲ旨トシテ 此ノ體勢トハ常ニ稽古ヲナス時ニモ
 體ノ崩亂ザル様ニ體育法ヲナスベシ最モ實地ニテ出合トモ稽古ニ其心
 ナクバ不意ニ掛ラル時ハ其効ナシ故ニ圖解ノ如ニナスベシ

體勢法ニ曰直立

ナナシ口ヲ結ヒ

テ胸ヲ開キ兩手

ヲ垂シテ拇指ヲ

掌ニ折圍テ腰ヲ

張リ下腹ニ力ヲ

入充分ニ氣合込

テ構ヘタル處ヲ眞之位ノ第一圖トモ云ベキ處ナリ又常ニ歩行スル時
 モ稽古ヲナス時モ左リ足ヨリ徐々ト進出ルベシ 又拳法ノ形ハ最モ警



視ノ形故ニ(サーアベル)ヲ帶テ稽古スベキ所ナレ共町道場等ニテハ木
 太刀ヲ用ル拳法ニテ太刀ノ必用ノ處ハ柄取。柄止。柄擲。又見合取ニテ
 ハ凶器等ニ小太刀ヲ用ユル形ノ切ニハ受方即チ甲者又我レト書ス處
 アリ取方ヲ乙者又敵ト記ス處モアリ總テ柔術ハ速氣々合勇氣ノ三氣ヲ
 以テ發聲ヲナス者ナリ氣合トハ甲ヨリ陽ノ聲ニテ(エイヤ)ト發音ノ聲
 出時ニハ乙ニ於テモ又陰ノ聲ヲフクミテ(チ)ト答テナスベシ甲ノ
 陽ノ發スル聲トハ形ノ切ニ敵ト對顔ヲナシ直立ノ儘敵ヲ白眼テ下腹ニ
 充分ノ勇氣ヲ滿チ(エイヤト)口ヲ開キテ發ル掛聲ヲ陽ト云又乙ハ同對
 顔シテ下腹エカヲ入白眼テ又掛聲ヲ甲ヨリ發セハ(チ)ト口ヲ結ヒテ
 答ヘルチ陰ノ聲ト云ナリ最モ掛聲ハ氣合ノ増ス者故ニ此ノ處ニ記載ス
 ルナリ流名ニ依テハ無聲ノ處モアリ成共初心ノ爲ニハ掛聲ヲ肝要トナ
 ス最モ總テ武術ニハ(エイヤ)(ヤー)(ト) (エイ)等劍術柔術居合棒長卷
 其外ニ又投ルニモ打込ニモ發聲ヲ掛クベキ者ナリ故ニ之ヲ記シヌ

四

體勢圖解 其二體 擣圖其一

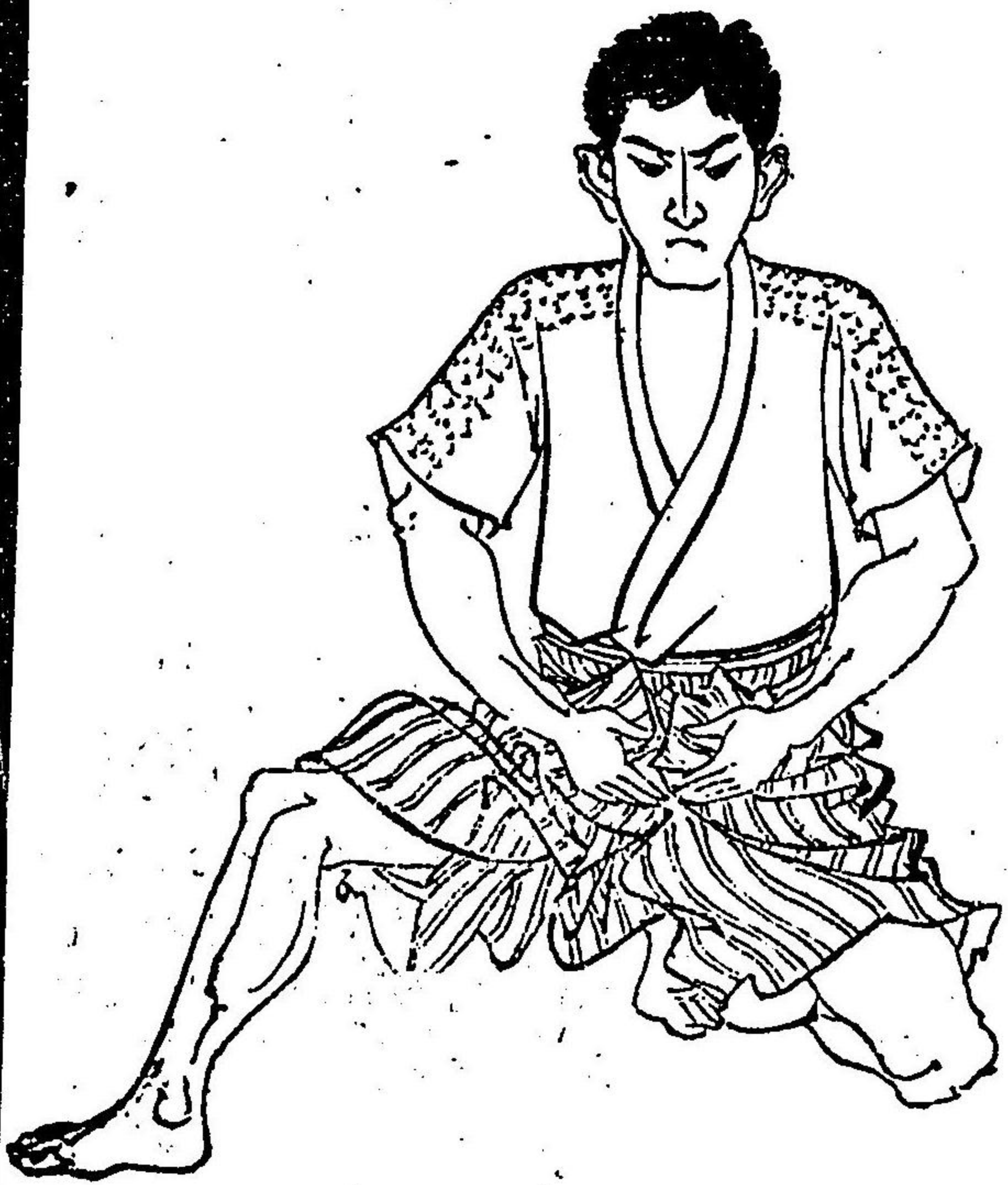
體勢其二ノ圖解ニ曰總テ柔術家ニ於テハ最モ要務トスベキ者ハ身擣ヲ
 專一ニスルベシ其法ハ圖ノ
 如ニ兩手ニテ我陰囊ヲ圍ヒ
 中腰ノ様ニ兩足ヲ横一文字
 ニ開キ瓜先ヲ外部ヘ向ケ腰
 ナ据ヘ口ヲ結ヒ下腹ニ力ヲ
 入寫生ノ擣ヲ眞ノ位其二ト
 モ云ベキ處ナリ最モ此腰ニ
 テ腰投。入腰脊負投等形亂
 捕ニハ最自由自在ニ配動ヲ
 ナスベキ擣ヘナレバ常々腰
 チタメスベシ



五

體勢圖解 其三 體勢圖其二

此ノ圖ノ構ハ前圖構ヘヨリ左リ足ヲ一尺二三寸後ヘ引テ膝ヲ突キ右足
 ナ立膝ヲナス腰ヨリ上ハ前ト同足ノ趾ヲ我カ肛門ヘ押當ルベシ
 我レ投ラレテ起上ルニモ此様
 ニテ起テ眞ノ位ノ其三共云フ
 バシ最モ敵ト對顔シテ白眼ア
 イチナシ發聲ノ音ノ出ルモ起
 上リノ勇振殘心附ルモ此圖ノ
 様ニテ形ノ都合ニ依テ足ハ左
 右アリ此ハ右立膝ヲ記スナリ
 最モ發心、中心、殘心氣合雄氣
 ノ滿ツルハ此ノ構ニアル處ナ
 レバ圖ノ解釋ヲ詳細ニ言ヘバ
 膝ト爪先ヲ外部ヘ向ケテ横一
 文字ニ開キ膝頭ト足先ノ並フ
 様ニナシ下腹ニ力ヲ入ルベシ



六

距離圖解

對顔白眼ノ圖

距離トハ其柔術道場ニ及
 稽古ナス場所ノ廣狹ヲ量
 双方共形ノ切ハ此禮ヲナ
 シ一時元ノ處ニ開キ甲乙
 ノ發聲ト同時ニ中央迄進
 ミ出凡三尺斗間明圖ノ構
 ナナスヲ距離ト云同時ニ
 左足ヲ壹尺二寸斗左リ斜
 ニ双方共ニ開キ直ニ乙ヨ
 リ仕掛ルベシ最モ拳法内
 ニハ甲ヨリ先ニ仕掛ル處



七

ハ襟投、陽ノ離、對顔セザル處ハ左右行連、後捕等ナリ 餘ハ總テ此ノ
 圖ノ構ヘニテ割出ス總テ柔術ノ形ニ於テハ同形ノ内ニ左右アル所モ有
 成共大略ハ人ノ利キ方ハ右故ニ右ノ形多クアリ 此ノ警視ノ形ハ僅ニ
 拾六本ナル故人五度學ベハ我十度モ稽古ナシ一ヶ月間迄ニ卒業ノ出
 來ル者ナレハ充分ニ氣合ヲ入勇氣ヲ込テ身體ヲ輕ク我レ投ル、共其身
 手ヲ打早ク返ルベシ又畫ニ記シアル點線ハ其變化ナル故此書ヲ充分ニ
 書畫ヲ見合シテ其上ニテ稽古スベシ最モ指ノ動キ眼玉ノ附處ニハ畫師
 ノ動キナリ故早繩活法ニモ其心ヲ附ベシ最モ活法ノ動キハ充分ノ氣合
 ガナクテハ其功ヲ要セス 此形ハ同ジ仕掛ノ處モアリ其形ニ付一本毎
 ニハ袴模様ニテ甲乙ヲ見ルベシ見出シニ左右前後斜メ等ノ記載ヲ見合
 テ良讀アレ當形ハ久富先生ノ修正ヲ以テ出版ナシタレバ其見難キ處ハ
 著者ノ考案ニテ諸先生ノ試験ヲ受テ出版ノ梓ニノセタレバ實地ニ手ヲ
 以テ教ヘル様ニ圖畫ト筆ニマカシテ記載アル者ナレバ講讀諸君ノ幸ヒ
 ナ所ル所ナリ

柄 取 其 一

右ヨリ寫圖

甲方ハ木太刀ヲ帶
 テ進ミ出ル(受テ發シ乙ニ
 ノ答ト共ニ
 双方進ミ出)双方氣合充
 分滿チテ對顔ス同
 時ニ左足ヲ一尺二
 寸斗リ左斜メニ開
 キ(双方共
 同シ)我ハ左手
 拇指ニテ劔ノ鐔ヲ
 押ヘテ下腰ニ力ヲ
 入テ圖ノ如クニ構
 ヘルベシ直ニ次
 圖ヘウツルベシ



甲方ハ敵ノ動勢ト同時ニ劍ノ鐔ノ鑿ニ力ヲ込テ敵ノ眼中ニ見テ次圖ニ續ク



柄 取 其ニ右ヨリ寛圖
敵ハ右足ヲ一足踏出同時ニ甲方ノ柄ヲ圖ノ如ク
ク雙手ニテ握ミ引抜カントス

柄 取 其三

左ヨリ寛圖

甲方ハ充分ノ氣合ヲ込テ敵
ハ劍ヲ引抜カント左リ足ヲ
一足引テ拔掛ルヲ直チニ右
手刀ヲ以テ敵ノ眼中ニ霞ヲ
入同時ニ右足ヲ一足敵ノ引
ニツレ右足ヲ踏出ス 敵ハ
此ノ手刀ヲ除ル爲ニ左へ顔
ヲ向ケル我レハ直チニ點線
ノ如ク柄頭ヲ下ヨリ握リ腰
ニ力ヲ入テ充分ニ氣合ヲ込
テ次圖へ續ク(手刀トハ五指ヲ握テ)
(最モ柄取ノ肝要ノ處ナリ)



十一

リ手ノ背部ノ處ヲ摺ニ次圖ノ續クベシ
 最モ敵ノ兩手ヲ摺ムベシ



三圖ヨリ引續キ直ニ柄頭ヲ我カ右膝頭ハ引下
 充分右後ヘ足ト共ニ引附テ敵ハ柄ヲ持タル儘
 ニ引レル故ニ足ト共ニ又直ニ敵ノ手ヲ我レヨ

柄

取

其四 背後ヨリ寫圖

柄

取

其五 左斜メヨリ寫圖

敵ヲ充分ニ引附テ直
 ニ下腹ヘ力ヲ入敵ノ
 體ノ崩レタル處故ニ
 右足ヲ左足ノ處ヘ寄
 セナガラニ圖ノ如ク
 左手ハ鐐ニシカト持
 兩足踏揃ヘ直ニ右手
 ハ敵ノ左手ト柄頭ニ
 附テ敵ノ腰ヨハルト
 同時ニ敵ハ右手ヲ放
 ス故ニ直ニ次圖ノ如
 クニナスベシ 最モ敵ノ左手ハ逆ニ成シ故ニ充分ニ投ラル、ナリ



柄 取 其六

正面ヨリ寫圖

我レ左リ足ヲ後ヘ大キ
ク引開ク同時ニ右ヨリ
敵ノ手モロトモニ下ヘ
返シ敵ヲ投放スナリ
圖ノ如クノ構ヘニナル
ベシ 敵ノ起上リ殘心
附ル迄テ此ノ構ヘヲ崩
スベカラス 敵モ手ガ
逆ニ成ル故ニ投ラル
成バ身ヲ輕クシテ手ヲ
打テ倒ルベシ 總テ形



十四

ハカチ入レズ氣合ト藝トニテ出
來ルヲ忘ルベカラス 起上ル
同時ニ甲ト對顔スルヲ殘心ト云
是テ柄取ノ形 終ル
○此形ハ 元天神眞揚流ト眞蔭
流ヲ修正チセシ形ナリ 久富鐵
太郎先生ト今泉八郎先生驗查ニ
テ今泉榮作先生ト著者井口松之
助ノ形捕圖



十五

柄止 其二

左正面寫圖

双方共進出ル形ハ前條ノ一圖
ノ如ク 敵ヨリ甲方ノ柄頭ト
右手首ヲ摑ミ圖ノ如キ様ニナ
リ受方ハ同ク前ノ一圖ノ如ク
構ヘテ下腹ニ力ヲ入テ敵ノ眼
中ヲ見ル 乙モ力ヲ入テ甲方
ノ顔ヲ見ナガラニ次圖へ續ク
ベシ



柄止 其二

右斜メニ寫圖

敵ハ直ニ左斜メニ左リ足ヲ
踏出スト同時ニ双手ニテ甲
方ノ右ノ方へ押附ル故ニ我
レモ又右足ヲ右へ一尺餘斜
メニ開キ 下腹ニ力ヲ入テ
止ルベシ 此時ニ敵ノ體少
々崩レル故ニ直チニ次圖ニ
ウツルベシ

(○此ノ柄止次圖ノ處ガ肝要ノ處
ナリ)



柄

止

其三 見所ノ正面ヲ寫圖

甲方ハ直ニ右足ヲ敵ノ前へ踏出ス同時ニ軀ヲ進メ敵ノ右手ニテ握リタ
ル處ノ柄ヲ我レヨリ鰐ニ拇指ヲ掛タル儘
下ヨリ左へ廻上ルト右ニ持タル敵ノ手解
ル故ニ左手モ同時ニ敵ノ下ヨリ高ク上レ
バ敵ノ指解ケル故直ニ敵ノ左リ手首ヲ握
リ敵ノ左腕ヲ我レヨリ卷込第四ノ圖ノ如
ノ手ニテ充分ニ持バ敵ノ體崩レル故ニ右
足ヲ引テ次圖ニ續ク

柄

止

其四 正面ヨリ寫圖

敵ノ手ヲ卷込ニ同時ニ右足ヲ一足引テ直
チニ其處へ膝ヲ突左足ヲ横ニ開キテ卷込
タル手首ニ左ノ手ヲ添敵ノ手ヲ圍ムベシ



敵ハ體ノ
亂崩ト痛
ニテ負サ
シメシテ
終ル双方
共殘心ヲ
附ルナリ
○此形ハ
澁川流ノ
手續キ勢
車取ノ内
立合ノ形
ヲ久富先
生修正ナ
ス形ナリ
最モ試験
ニ又修正
ヲナス圖
ナリ

柄 搦 其一

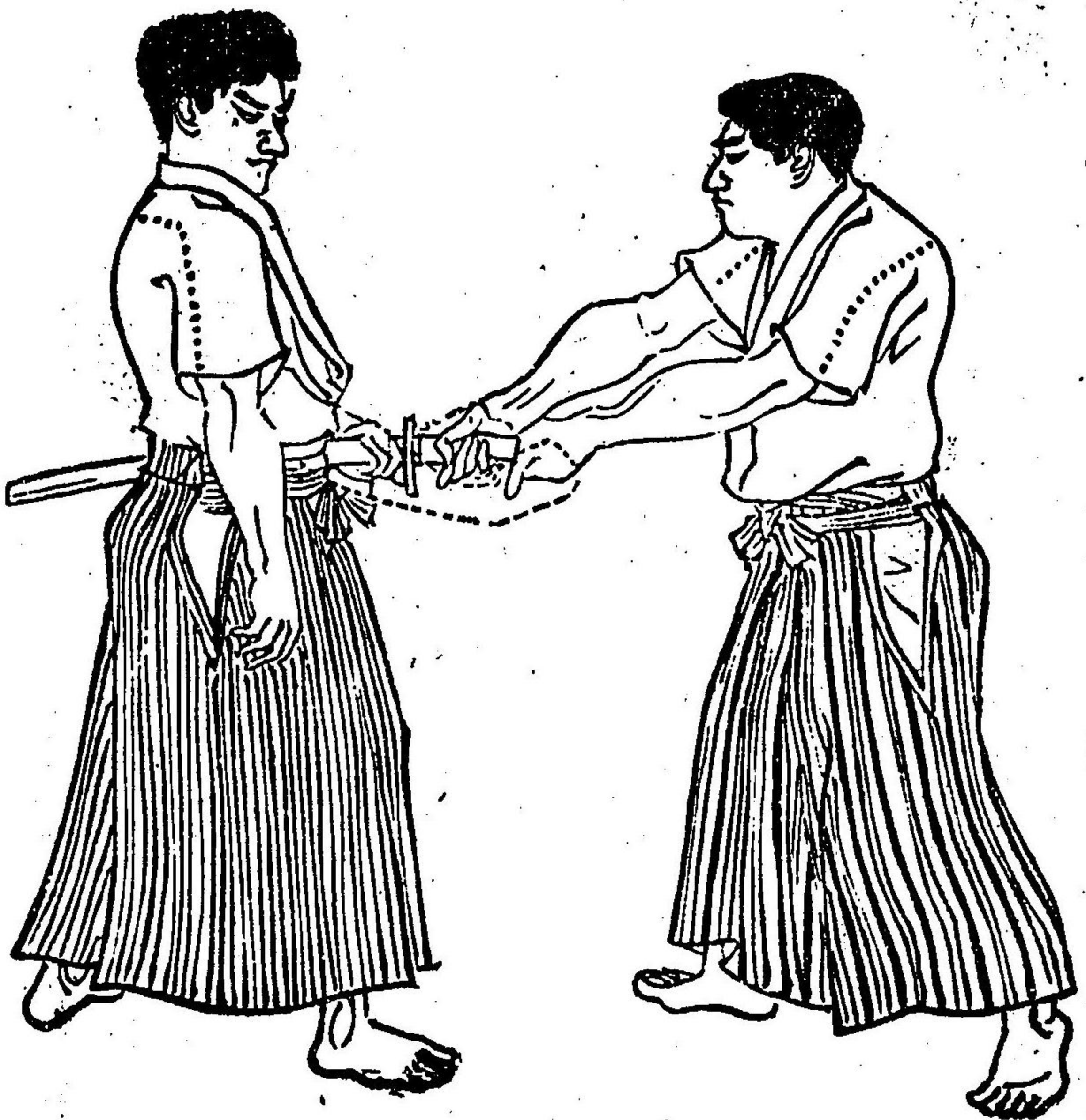
右正面寫ノ圖

此モ出方ハ柄取一圖ト同
 一 双方對顔シ敵ヨリ右
 足ヲ一足進ムト同時ニ双
 手ヲ以テ劍ノ柄ヲ圖ノ如
 クニ取り引拔ントス 我
 レ直ニ點線ノ如クニ下ヨ
 リ柄頭ヲ持チ下腹ニ力ヲ
 入氣合テ込テ右足ヲ前ニ
 進ム同時ニ次圖ニ續ク

柄 搦 其二

右斜メヲ寫圖

敵ガ劍ヲ上エ引拔ニ連レ
 テ我レモ右足ヲ踏出同時



ニ下腹ニ力ヲ込敵
 手背部ヲ圖ノ如ク
 ニ搦ミ下ヨリ押エ
 テ敵ノ體ヲ崩シ直
 ニ右ヘ廻セバ敵手
 ガ解ルト共ニ柄逆
 ニ成故ニ我カ體ヲ
 返ナガラ一足引敵
 ノ左手ヲ放シテ次
 圖ニ續ク點線ヲ見ヨ

(○此處肝要ナリ)

柄 搦 其三

右斜メヲ寫ス是モ見出
 ハ前ノ如ク此處肝要ナ

我レ直ニ右手ヲ柄
 ト共ニ双手ニテ持
 左足ヲ引テ膝ヲ突



見合取 其一 右正面寫圖
 敵ヨリ小太刀ヲ左手ニ持距離圖ノ如クノ様ニ
 進出ルニ甲方ヨリ掛聲ヲ發ス乙方答テ双方共
 足ヲ前へ踏出同時ニ小太刀ヲ抜カントスル圖
 甲ノ如クナリ
 者ハ下腹ニカテ入テ敵ノ右手首ヲ摑ムト同



云テ生宗故リ
 ナス修助逸
 リル正先見
 流ハ〇ベ
 立此シ
 内見形
 ナシテ
 殘テシ
 別ツテ
 心負シ
 手トテ
 敵徐々
 ノガ腰
 力キ
 下ヲ開
 入腹力
 下ヲ入
 腹力キ
 右足

時ニ右足ヲ一足踏込直ニ
 左リ足ヲ又敵ノ右脇へ踏
 出ストタンニ敵劍ヲ拔ニ
 連レテ左手ヲ敵ノ左肩口
 へ附充分ニ敵ノ背後へ廻
 リ込テ次圖ニ續ク

見合取 其二

右斜ニ寫圖

甲者ハ敵ノ左肩口ヨリ敵
 ノ右襟ヲ摺ミ右手ヲ横へ
 引左腕ヲ充分ニ延セバ敵
 ノ體崩レル故ニ下腹ニ力
 ナ入テソト敵體ヲ押セ
 バ 次圖ニ續ク
 (○最モ此處肝要ノ處ナリ)
 此畫ニ甲方ノ左腕曲リア
 ルハ摸寫ノ都合ニ依テ中
 バヲ畫書タル處ナリ最モ
 畫工ノ勤キト云ベシ



見合取 其三

正面ヨリ寫圖

甲者ハ充分ニ敵ノ體ヲ崩シテ
 我カ左リ足ヲ直ニ後へ引キ膝
 ナ突クベシ同時ニ右足ヲ横へ
 大キク開キ下腹ニ力ヲ入テ腰
 ナ前へツキ出スト同時ニ兩手
 ナ押延スベシ敵ノ襟ヲ締メル
 ト右手ヲ張ルベシ圖ノ如ク
 敵ハ負テ記シテ見合取形 終
 ○此形ハ(戸田流)ト(喜樂流)ニ
 アル形手ノ内ヲ出スモノナリ
 片手胸取 其一

右正面寫圖

双方共ニ距離圖解ノ如クニ進



ミ出敵ヨリ甲者ノ胸襟ヲ兩
 手ニ集メ左手ニテ摺ミ右足
 ナ一足踏込同時ニ點線ノ如
 ク右拳ヲ以テ甲ノ頭上ヘ打
 込ナリ 甲者ハ右足ヲ斜メ
 ニ開キ同時ニ敵ノ摺ミタル
 手首先ヲ圖ノ如クニ左リ手
 ニテ握リ右手ハ摺ミ居ル襟
 下ヲ引上レバ敵ノ指ニスク
 ユエ我レ小指ヨリ差込デ今
 敵ヨリ打附ル同時ニ敵手ヲ
 逆ニ取次 圖ニ續ク

片手胸取 其一

敵ヨリ打込節ニ我カ左手ノ
 (コバ)ニテ押ヘ右手ニテ敵ノ
 掌ヲ逆ニ取テ我兩手ニテ圖

左正面寫圖



左足ヲ引テ直ニ下腹ヘカヲ入テ指先ヲ組合シテ兩
 手ヲ押延シ敵ハ充分ニ體ノ崩レルユエニ我ハ又直
 次圖ニシテ
 (最モ此
 ナリ
 處モ此
 ナリ) 此
 ノ胸
 甲ニ
 兩腕
 シテ
 蓄シ
 合テ
 指ヲ
 見セ
 曲メ
 ジタ
 ア分
 ス處
 ナ延

左足ヲ引テ直ニ下腹ヘカヲ入テ指先ヲ組合シテ兩
 手ヲ押延シ敵ハ充分ニ體ノ崩レルユエニ我ハ又直

又田サ内ノ手形流新木荒ハ此〇シ



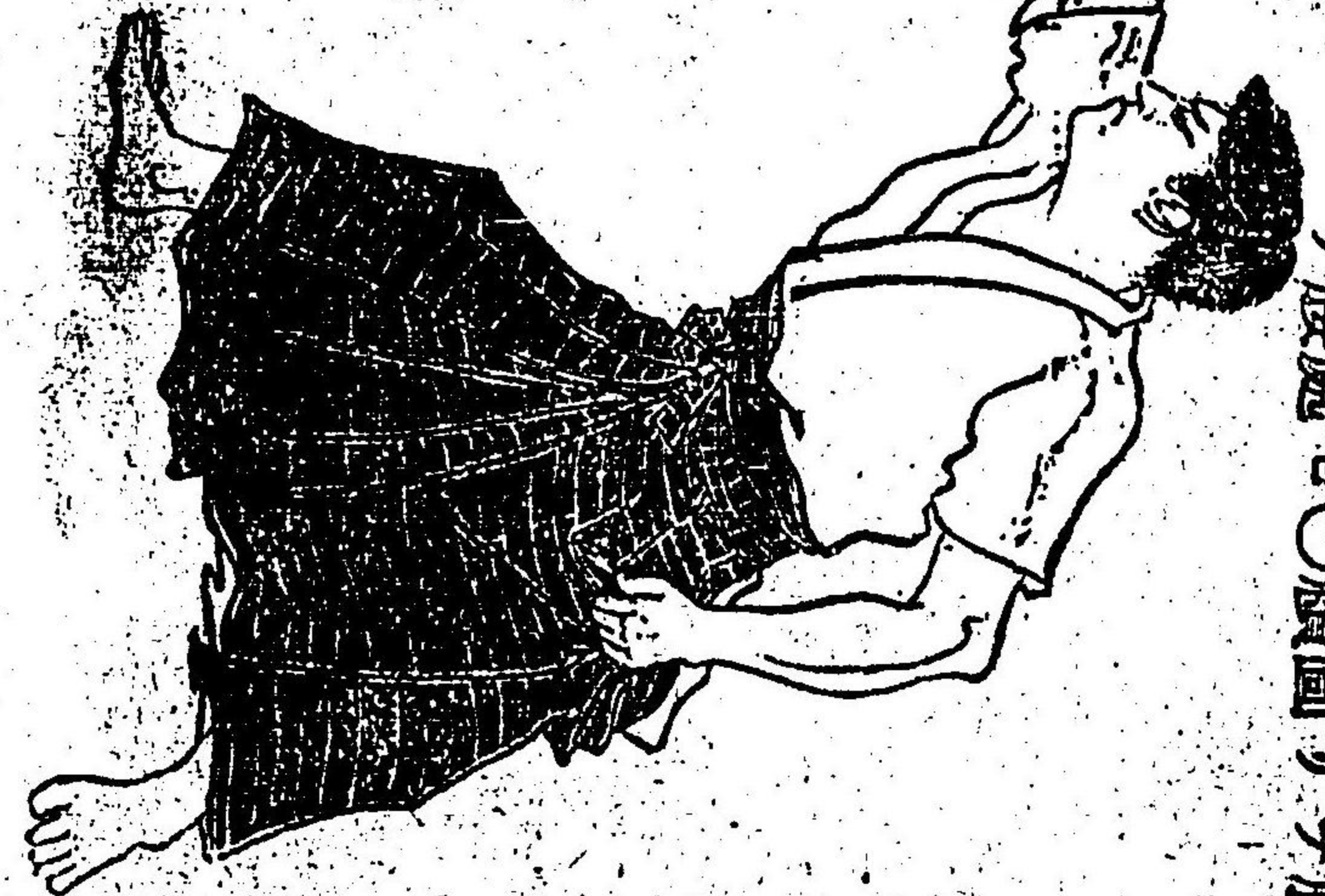
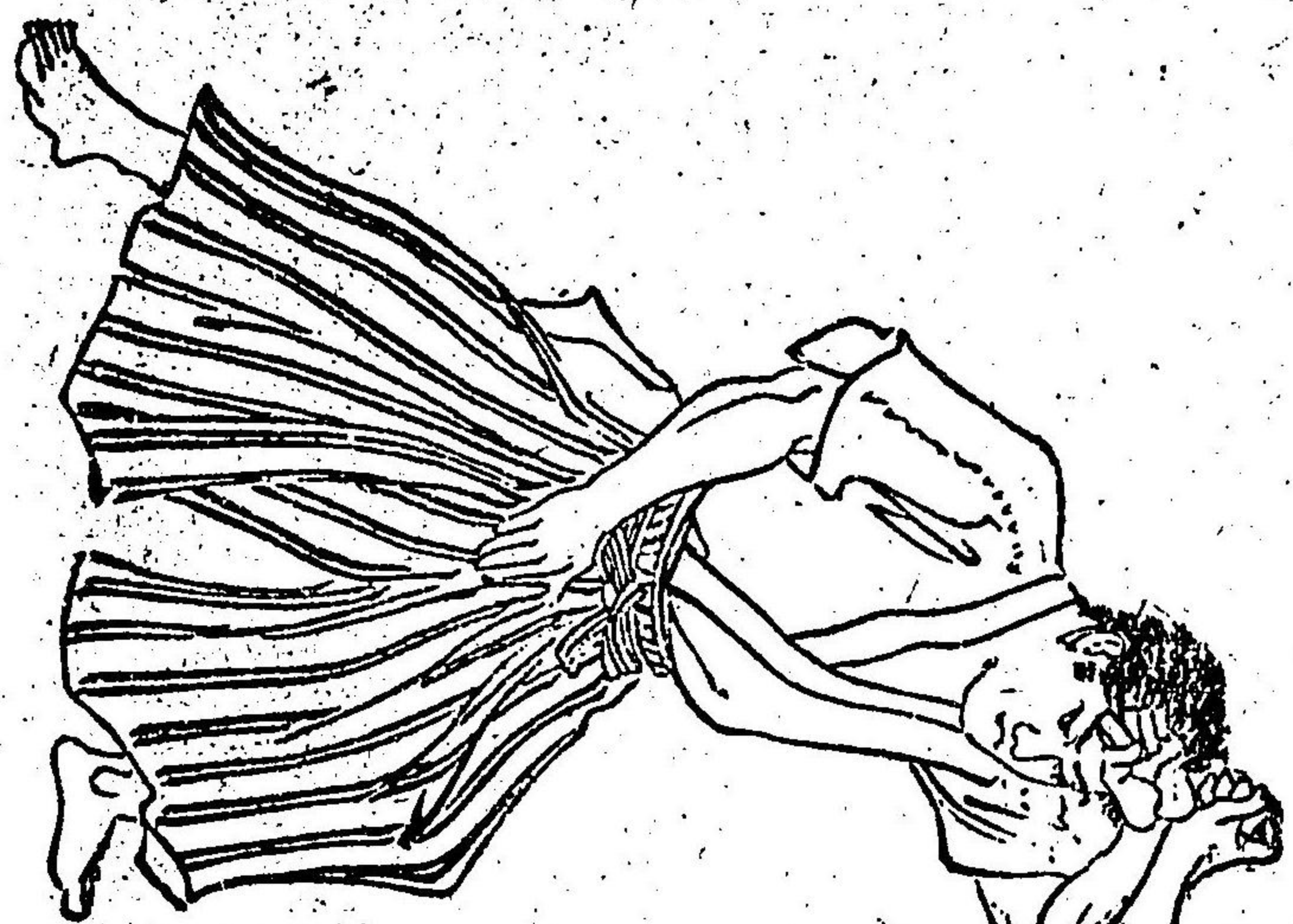
片手胸取 其三 正面ヲ寫圖
敵ノ左斜ソニ開キ 左膝ヲ突キ右膝立圖ノ如ク
ニ下腹ニカチ入テ腹ヲ前ヘツキ田シ雙手ヲ押
附延ニテ手ヲ締ル 敵ハ負サシマシテ終ニ殘ナク
ルベク心

腕止メ其一

左リ斜メテ寫圖

双方進出テ距離ヲ
量リ乙者ヨリ右足
ヲ一足踏込ト同時
ニ右拳ヲ以テ甲者
ノ頭部ヘ打込ミ双
方其圖ノ構ノ如シ
甲者ハ下腹ニ力ヲ
入敵ノ顔ヲ見テガ
ラニ直ニ次圖ヘ續
ク





三十一
 腕止メ 其二 右斜メヲ寫圖
 ヲ打込メ腕ヲ我ノ右足ヲ右斜メニ後ヘ引
 ヲ圖ノ如ク横一文字ニシテ受止メ直ニ敵
 左敵ヨリ腕ヲ腕ノ次握首ノ腕ヲ腰處モ
 ナリ此最クニ續圖ヲ

腕止メ 其三

左リ斜メヲ寫圖

我レハ敵ノ右腕首ヲ取り同
 時ニ敵ノ腕ノ附根ノ處圖ノ
 如ク下ヨリ五指ニテ押我兩
 腕ヲ張延シ左爪先ヲ外方趾
 ヨリ廻シ爪先ニ力ヲ入腰ヲ
 ヒチルト同時ニ右足ヲ以テ
 敵ノ右足裏ヨリ強ク打拂フ
 ベシ 最モ腕ノ引様ニテ敵
 ノ體充分ニ崩レル故兩手ト
 足ト三拍子同時ニ倒スベシ
 ○此處モ肝要ノ處ナリ



腕止

其四 見所ノ正面ヨリ寫圖

前條ヨリ引續キ敵ノ體ノ充
分ニ亂レタル切右足ヲ高ク
ヨリ敵ノ膝裏ヲ打拂エバ敵
ハ浮足ニナル故ニ拂フト直
チニ我拂ヒタル足ヲ其處ヘ
踏止メ左リ足ヲ左ヘ大キク
開キ圖ノ如クノ様ニナリ敵
ノ起上ル迄下腹ニ力ヲ入兩
股立チチ持チ殘心ヲ附ル迄
敵ノキヨドウヲ見込ムベシ
乙者ハ足裏ヲ拂ハレル故
ニ是非共倒レルヲ故ニ左リ



手ヲ打テ倒レルベシ最モ
直ニ起上ルニ眞ノ位ノ第
三圖ノ如ニ起上リ甲者ト
對顔シ殘心ヲ附ルベシ
此ニテ腕止メノ形終ル

○此ハ元起倒流ノ形手ノ
内ヲ奥田先生ト久富先生
ノ正改ヲ猶今回久富先生
ノ修正ヲ受テナス處ナリ



襟 投 其一

左斜ノ寫圖

此形ハ甲者ヨリ乙者ノ前ヘ
ニ進出テ二尺餘ノ距離ヲ明
甲ヨリ乙ノ襟ヲ兩手ニ集テ
右手ニ摺ミ下腹ニカテ入敵
ノ顔ヲ見ナガラ乙者ノ胸部
ヘ押附ルト同時ニ乙者ハ圖
ノ如ク下ヨリ手首ヲ取テ左
リ足ヲ一尺斗引下リ甲ノ
顔ヲ見込下腹ニカテ入テ右
拳ヲナシテ直ニ次圖ニ續
クベシ 此三圖ハ總テ解シ
好クナル處故ニ圖ニ心ヲ止
メテ注意スベシ 最モ畫工ノ
苦心ナス處ナリ



敵ハ既ニ右拳ヲ以テ打タシトスル處ナレバ我レヨ
リ右膝ヲ敵ノ股ヘ突キ左足ハ少シ後ヘ延ス右
腕ヲハ充分ニ押突コト圖ノ如ク様ニナル故ニ右
次圖ニ我カ右腕ノ下ヲ明ク敵ノ顔ヲ白眼同時ニ
次圖ハ續クベシ

襟 投 其三

正面ヨリ寫圖
 敵ノ軀ヲ充分ニ押崩テ我カ
 腕ノ下ヲクマリ圖ノ如クノ
 様ニ成右膝頭ヲ左足ト共ニ
 廻リ込左足ヲ左リ後ヘ大キ
 ク開キ敵ノ襟ヲ我前ニ引落
 シ左手ヲ敵ノ左足ヲスクイ
 上ゲルベシ敵ハ我前先ヘ充
 分ニアテ向ニ倒レルナリ起
 上リハ双方其眞ノ位第三圖
 ノ如ニテ殘心附テ終乙ハ是
 非投ラル、故ニ早ク手ヲ打
 テ負ヲシメスベシ
 ○開口流勢法ノ内形(眞揚流)ノ相潜
 ノ形手ノ内ヲ修正ス



摺 込 其一

右正面寫圖
 雙方進出ルヲ距離圖ト
 同シ 敵ヨリ甲者ヲ見
 込右拳ヲ振上ル同時ニ
 右足ヲ右斜メニ引ナガ
 ラ下腹ニ力ヲ入テ甲者
 ヘ拳ヲ打込ム同時ニ右
 足ヲ前ヘニ踏出スベシ
 甲者ハ敵ノ打込様ヲ見
 テ下腹ニ力ヲ入テ只腕
 ナ振上迄ヲ見込テ居テ
 直ニ次圖ニ次クベシ



摺

込 其二

左リ斜メ寫圖

敵拳以テ甲ノ頭上ヘ打
 込故ニ敵ノ踏出ス右足
 ノ外ヘ左足ヲ我レモ踏
 出ス同時ニ左手ヲ矢筈
 エシテ打落ス腕ニ摺リ
 ナガラ敵ノ顎ノ處ヘ押
 當テ充分腕ヲ延スベシ
 敵ノ體圖ノ如ク崩レル
 故ニ下腹ハ力ヲ入テ爪
 先ニ充分ニ踏ミシメテ
 直ニ次圖ニ續クベシ
 ○最モ此處肝要ノ處ナリ



摺

込

其三

左リ斜メ寫圖

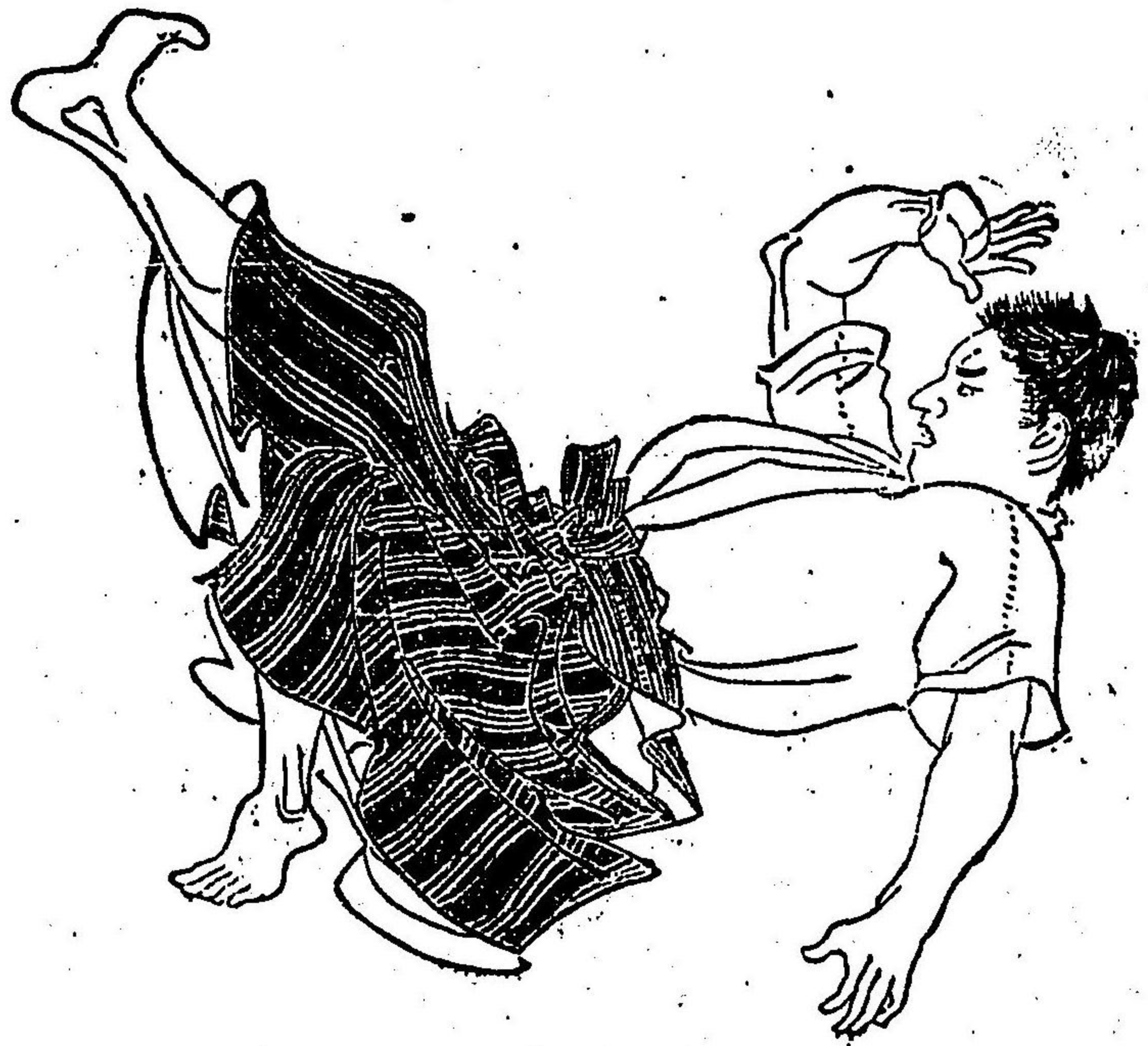
我ハ敵ノ體崩レタル故ニ直
 右足ヲ一尺バカリ開キ左手
 ナ充分ニ押延セ敵ノ右足ヲ
 右外部ヨリ持上テ充分ニ氣
 合テ込メテ圖ノ如クノ様ニ
 ナル處ニテ次圖ニ續クベシ
 但シ此摺込挿畫ノ内第四圖
 ノ投ル處甲乙共ニ袴ガ畫工
 ノ誤リニテ模様ノ續キト違
 ヒアルハ讀者ニ於テ御察シ
 フルヲ乞



摺込 其四

正面右斜ノ意圖

我レハ敵ノ足ガ浮キタル處ヲ下
ヨリスクヒ上ル様ニナシテ敵ヲ
向ヘ斜メニ下腹ニ力ヲ入テ左手
ハ押延ス右手ハ上ゲナガラニ向
ヘ投出スベシ
但シ顎ニ手ヲ掛ルハ形ノミ實地
ハ鼻ヲ下ヨリ突上ルコト聞バ其
心得ニテ稽古スベシ敵モ是非舛
ハ亂レ倒レルコトニ極ル處故ニ早



ク左手ヲ打テ輕ク倒ル
ベシ起上リニハ眞ノ位
ノ第三圖ノ如ク構ニテ
殘心ヲ附テ摺込形 終
ル
○此ハ(無双流)(清水流)
手形ノ内ヲ出シタル者
ナリ
敵ノ起上ル迄ハ此ノ構
ヲ崩スベカラズ殘心ヲ
附迄ハ勇氣ヲ附ルベシ



敵ノ先 其一

左リ斜メ寫圖

双方進出ルヲ前ニ
同ジ双方共左へ一
尺餘斜メニ開クヲ
敵ヨリ右足ヲ前ニ
踏出ス同時ニ右拳
以テ頭へ打込故ニ
我レハ下腹ニ力
ヲ入テ敵ノ様子ヲ
見テ直チニ次圖へ
續クベシ

敵ノ先 其二

右斜メ寫圖



双方共此處ニ合ハス氣ヲ捕
シテ形ヲ直チニ見テ

敵ヨリ打込拳ヲ我ガ左手ヲ横ニ受止メ同時ニ
右足ヲ一足後へ引ナリ直チニ敵ノ右手ヲ攪ミ
次圖ニ續クベシ○最モ此處敵ノ先ノ肝要處ナ
リ

敵ノ先 其三

左リ斜メ寫圖

我レ敵ノ右手首ヲ握ヤ
直ニ右足ヨリ腰ヲ敵ノ
腕下ヘ廻リ込右手ヲ以
テ敵ノ二ノ腕ノ處ニ摑
ミ下腹ニ充分ニ力ヲ入
足ヲ櫛ニ開タル様圖ノ
如ニナシ(エイ)ノ一聲
ト共ニ次圖ヘ續クベシ
○此時ニハ敵ハ早ク投
ラル様ニ心得ヘテ手ヲ
打様ニナスベシ。



敵ノ先 其四 正面ヨリ寫圖
前ヨリ引續キ(エイ)ト肩サ下ルト同時ニ敵ノ
右腕ヲ我前ヘ引落スベシ○亂捕ニテ脊負投ノ
敵ハ左手ヲ打テ負ナシマシテ殘心ヲ附テ形終
○此ハ神明殺活流ノ形手ヲ修正ナス者ナリ

帶 引 其一

右横斜ノ實圖

双方共中央ニ進出テ距離
ヲ取對顔直ニ双方共左足
ヲ斜ニ開キ敵ヨリ右足ヲ
一寸出ス同時ニ我帶ノ前
ヲ上ヨリ摺マントスルナ
リ 甲者ハ敵ノ動勢ニ眼
ヲ附白眼ミナス此ノ構へ
ハ最モ柔術家ノ距離ヲ量
リ双方ニ氣合ノ乗タル處
ナリ 次圖ヲヨク見ヨ



四十六

帶 引 其二

右斜メヨリ實圖

敵ヨリ直ニ右足ヲ踏出同時
ニ右手ヲ延シテ我前帶ヲ上
ヨリ摺ミ腰ニ力ヲ入テ(シ
ト)引附ルナリ我ハ下腹ニ力
ヲ入テ腰ヲ張リユタエナガ
ラ點線ノ如ク手ニナシ左足
ヲ敵ノ右横股ノ處へ踏出ス
同時ニ敵颯ニ押當直ニ次圖
ニ續クベシ 最モ此ノ形ハ
左リ手ハ摺込ト同シナリ



四十七

帶 引 其三 左リ斜メテ寫圖

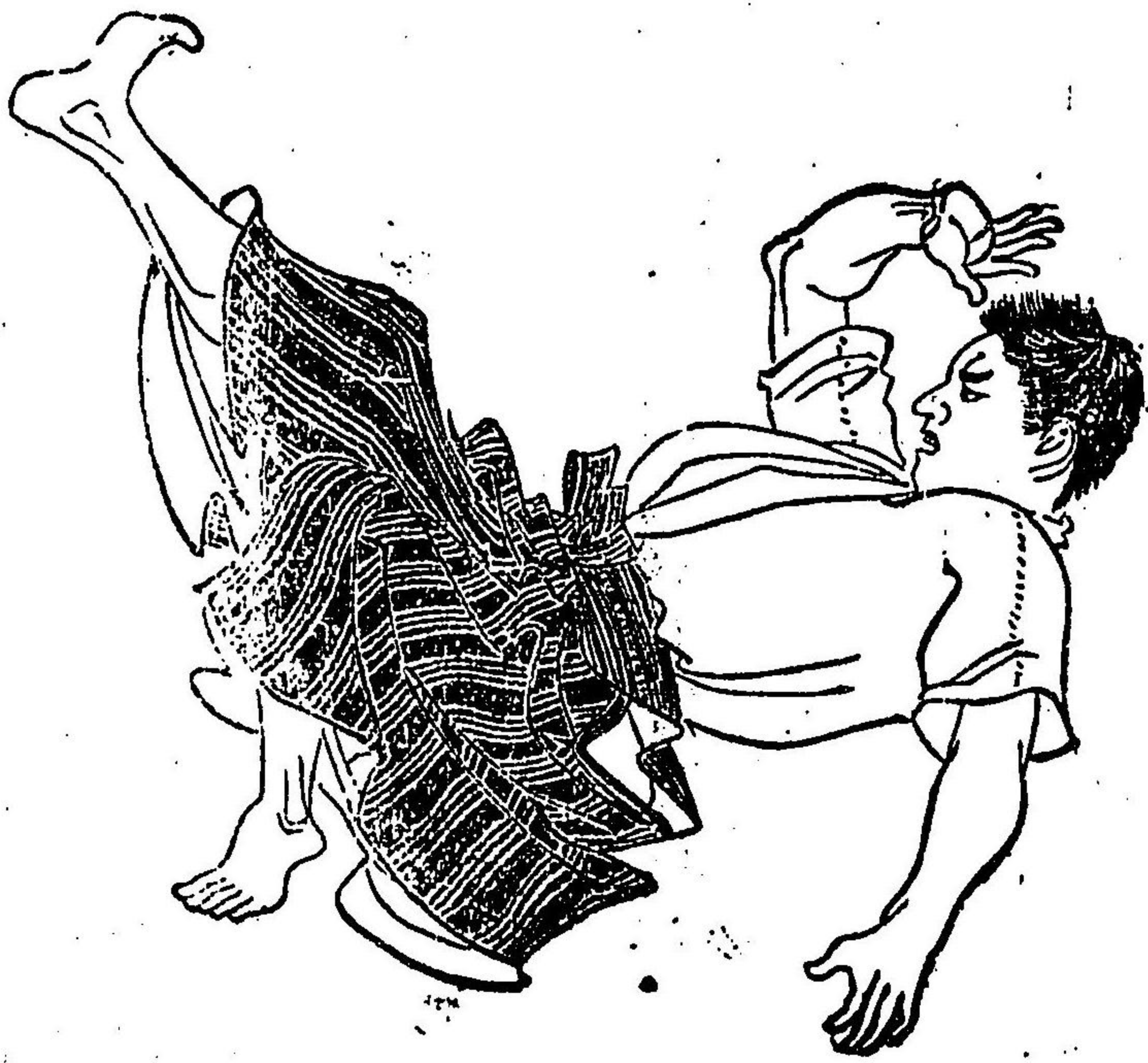
敵カ我體ヲカチ入テ引附ル故
直ニ腰ヲ張り下腹ニ力ヲ入テ
引レテ同時ニ圖ノ如ク敵ノ右
股ノ横ヘ我ガ左リ足ヲ踏出シ
同時ニ左手ヲ矢筈ニシテ敵ノ
腮ニ押當同時ニ又右手ヲ以テ
我レヨリモ敵ノ上帶ヲ上ヨリ
攪ミ充分ニ力ヲ込テ腕ヲ延シ
引ト押ト別ニナシテ敵ノ軀ヲ
充分ニ崩シ次圖ニ續クベシ
○最モ此ノ處帶引ノ肝要ノ處
ナル故甲者ハ充分氣合ヲ込テ
術ヲナスベシ



帶 引 其四

右正面ヨリ寫圖

我レ前圖ノ如ニ充分ニ下腹エ力
ヲ入(エイ)ト聲ト共ニ敵ヲ斜メ
ニ向ヘ押倒スベシ 乙者ハ又手
ヲ打テアヲ向キニ倒レル故ニ早
ク身軀ヲ輕クシテ負ヲシメシテ
倒ルベシ起上ル切ハ眞ノ位第三
圖ノ如クナシテ殘心ヲ附テ終
ルベシ



甲者ハ投倒シタレバ體ニ勢ヲ附下腹ニ力ヲ入敵ヨリ負ヲシメシ殘心ヲ附タレバ是ニテ帶引ノ形ニ終ル

○此ハ長移心頭流ノ形手ノ内ナリ
最モ此形ハ双方ノ氣合ヲ充分ニ入テ其術ヲ施スベシ實地ニテモ隨分面白キ手ナリ



行連レ 左上頭 其一

正面寫圖

此ノ形ハ甲乙連レ達テ發聲ト共ニ左リ足ヨリ徐々ト中央迄進出ル成圖ノ如ク双方共ニ横眼ニテ敵ノ動勢ヲ見ナリ最モ行連トアル處ハ總テ一二尺間ヲ明テ進出下腹ニ充分ノ力ヲ入テ兩股立ヲ握リ出ル處ヲ記シアル故以後出方ハ此ノ圖ノ如クナリ黑袴ハ甲 縞袴ハ乙ナリ



行連レ 左上頭其二

正面寫圖

双方連レ達チ中央
迄ニテ兩足ヲ揃テ
立止ルベシ直ニ乙
者ヨリ圖ノ如クニ
甲者ノ顔ヲ見テ直
ニ右足ヲ右斜メニ
引開ク同時ニ右拳
ヲ以テ甲ヲ打タン
ト一右足ヲ甲ノ股
ノ處迄踏込ムベシ
甲ハ下腹ニ力ヲ入
直ニ次圖ニ續クベ
シ



行連レ 頭左上 其三

背後寫圖

乙者ハ甲ノ右拳ヲ以テ
打ト見セテ直ニ甲ノ右
肩口ヲ押左手以テ甲ノ
二ノ腕ノ處ヲ攔ミ右足
ヲ以テ甲ヲ既ニ倒サン
トナス甲ハ直ニ體ヲカ
ワシテ右足ノ趾ニテ入
替リ左リ足ヲ敵ノ兩股
ノ處へ踏込左手ヲ以テ
敵ノ襟ヲ持



行連レ 左上頭 其四

正面寫圖

前ヨリ引續キ甲者ハ圖ノ如ク
 左手ヲ以テ敵ノ襟ヲ摺ト同時
 右膝ヲ突キ右手ヲ以テ敵ノ右
 足裏ヲ持敵ノ體ヲ充分ニ崩レ
 ル處ヲ以テ直ニ次圖ニ引續ク
 ベシ 最モ乙者ハ早ク手ヲ打
 テ倒ル心得ヲナスベシ
 ○最モ此形ノ前ト此處ガ肝要
 ノ處ナリ



五十四

行連レ 左上頭 其五

正面寫圖

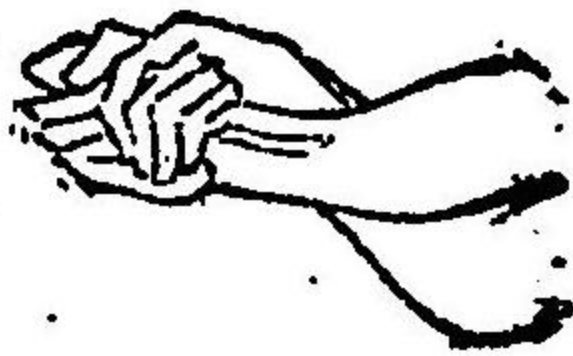
前書ヨリ續ク甲者ハ下腹
 ニ力ヲ入テ右手ヲ以テ敵
 ノ右足ヲハチ上ル同時ニ
 左手ハ下ヘ引落スベシ我
 左横合ヘ敵ヲ倒スベシ乙
 者ハ早ク左手ヲ打テ負ヲ
 シメシテ眞ノ位第三圖ノ
 如ニナシ双方殘心ヲ附テ
 此ノ形 終ル
 此ハ殺當流形手ノ内ヲ修
 正シテ出シタルナリ



五十五

行連レ 右突込 其一

此レハ双方中央迄進出テ立止
ル同時ニ双方右足一尺餘ヲ後
ヘ引對顔シ 乙者ヨリ右拳ヲ
以テ甲者ノ水月(俗ニ水落)ヲ右足ヲ
踏出ス同時ニ突込ナリ 甲ハ
敵ガ拳ヲ突出ト直ニ右足ヲ右
ヘ横一文字ニ開下腹ニ力ヲ入
左手ヲ以テ我ガ左脇腹ヲ圍ヒ
手先ニテ敵ノ突出拳ヲ向ヘ押
拂ヒ乍直ニ挿畫ノ
如ク拳ヲ擱ミ右手
ヲ添テ直ニ次圖ニ
續クベシ
○此ノ形大肝要ハ是ナリ
最モ注意スベキ處ト云



行連レ 右突込 其二

敵ノ突込タル拳ヲ擱
ムト我ガ體ヲ充分ノ
氣合ヲ込兩手ニテ持
タル敵ノ手ヲ圖ノ如
ニ我ガ指ヲ敵ノ掌ニ
テ重テ右足ヲ敵前ニ
踏出スト同時ニ兩手
ヲ圖ノ如ク上ヘ持ア
ゲテ左足引テ左後ヘ
大キク開クト同時ニ
次圖ニ續ク 乙者ハ
甲ニ持レタル儘直ニ
早ク返リ投ラル、心
得ヲナスベシ

行連レ 右突込 其三

開ク同時ニ兩手ヲ下
ヘ返シ投ニナスト共



ハバニナキ此ヲル併ヨハ各流形
カス無ルレ手最者シタ合流形
ラル理故イハモナタテ

形附心ニ如圖第ノ方眞双
終ヲ殘クノ三位眞双
打手ク左早
ハ早
ニ左
ナリ足ナ膝突キ右膝ヲ立下腹ニカチ入レテ
ナ押延指ヲ以テ敵ノ手脊ヲ固ムベシテ

五十八



行連レ左右腰投其一

正面ヲ寫圖

田方ハ前ニ同甲ハ左
乙ハ右ニ連レ中央迄
進ミ出ル處ニテ乙者
ヨリ甲ノ體ヲ右横ヨ
リ抱込圖ノ如クノ様
ニナス既ニ持上ント
ナス 甲ハ下腹ニカ
チ入兩手ヲ下ゲテ充
分ニ腰ヲ張ルベシ
直ニ次圖ニ續ク



五十九

行連レ 左右腰投 其二

正面寫圖

我レ抱込レタル處ヲ兩肘ヲ張リ體ヲ少下ゲ腰ヲ引テ右足ヲ右後ヘ引左足ヲ少前ヘ踏出シ敵ノ左腕ノ袖下ヲ我ガ左手ニテ下ヨリ摺ミ右手ヲ以テ敵ノ右手ノ下ヨリ腰ヲ抱込テ引故ニ敵ノ體充分ニ崩レテ圖ノ如クノ様ニナル直ニ次圖ニ續ク

○此形ノ肝要ハ此圖ト次圖ニアルナ



行連レ 左右腰投 其三

正面寫圖

前書ニ引續キ直ニ我右足ヲ敵ノ右股ノ先ヘ充分ニ踏出下腹ニ力ヲ入一寸腰ヲ下ゲ敵ノ體ヲ我ガ腰ヲ引附腰ヲ持上ゲ敵ノ軀ハ我腰ニテスクエ上ル右ノ手ニテ充分ニ抱込圖ノ如ク様ニナシ直ニ次ヘ續ク乙ハ非是投ラル、故ニ身ヲ輕クシテ左手ヲ打テ投ラル、様ニ心得ヘルベシ

○最モ腰投ト云處ナレバ此處肝要ナリ

行連レ 左右腰投 其四

左リ斜メ寫圖

甲者ハ敵ノ體ヲ我ガ腰ヲ以テツリ上下腹ニ力ヲ入左手ヲ充分ニ強ク引附敵ヲ(エイ)ト我





六十二

前へ投ル乙ハ左手ヲ打テ負ナシマシテ起上リ
 テ殘心附テ此形終
 ○此形ハ漣川流ノ四方組ト云形手ヲ修正シテ
 出ス

行連レ右壁副其一

正面寫圖

此レモ出方前ニ同
 甲者縞袴乙者黒袴
 双方中央ニ止同時
 ニ乙ヨリ右足ヲ引
 直ニ右拳ヲ以テ甲
 者へ打込同時ニ右
 足モ踏出ス甲者ハ
 圖ノ如ク右手ニテ
 敵ノ腕ニ摺込止同
 時ニ左足ヲ敵ノ右
 外股ノ處へ踏ミ直
 ニ次圖へ續クベシ



六十三

行連

レ

右壁副 其二

正面寫圖

甲者ハ敵ヨリ打込タル右拳ニ
 摺レ我右腕ヲ以テ敵ノ右腕ヲ
 卷込左手ヲ添テ敵ノ衣紋處ヲ
 右手ヲ以テタテニ摺ミ直ニ左
 手ヲ敵ノ左肩ヨリ押延シ敵ノ
 下襟(襟ヲ云)摺ムト直ニ又左足
 ナ引摺ムタル兩手ヲ押延シ下
 腹ニ力ヲ入テ腰ヲ張ベシ敵ノ
 體ハ崩ルナリ最モ此處ガ肝要
 ノ處故ニ此處ニテ眼ヲ附ルベ
 シ△圖ニ甲コ、ミタレ共下腹ヲ前へ
 出スベシ



六十四

行連

レ

右壁副 其三

背後寫圖

此レハ前ヨリ引續キヲ出
 ス處ニテ點線ハ左足ヲ踏
 出ス同時ニ敵ノ左リ肩口
 ニ手ノ掛リタル處ヲ記ス
 最モ衣紋ノ處ヲ摺ムハ圖
 ノ如クナリ掛右手ヲ以テ敵
 ノ腕ヲ卷込ミタル右腕ヲ
 解シヨキ爲ニ此處ヲ出ス
 ナリ故ニ直チニ次圖ニ續
 クベシ 乙ハ下襟ヲ取レ
 腕ヲ延バシ喉締ル故ニ顔
 ナ左ノ方ヘ一寸向ベシ



六十五

行連

右壁副其四

正面寫圖

前圖ヨリ續キ我レ下腹ニ力ヲ入腰ヲ張兩腕ヲ締テ向へ押出セバ敵ノ體亂ル故直ニ左膝ヲ突き右足ヲ横へ開キ徐々兩腕ヲ締ルベシ 乙ハ左手ニテ負ヲシメシハ甲ハ兩手ヲ放シ双方對顔シテ殘心附テ 形終

○此ハ揚心流ノ形手ノ内ヲ出ス處ナリ



行連

捕口後其一

右ヨリ寫圖

此形ノ出方ハ甲乙共同處ヨリ出ル敵カ先ニナリ甲者ハ後ニテ甲ノ發聲ヲ乙答ト共ニ二尺餘間アケテ雙方共ニ下腹ニ力ヲ入テ進ミ出ルベシ中央迄出テ乙ハ右ニ甲者ノ顔ヲ見ルベシ其様圖ノ如シ 兩股立チ摑ミテ出ル處ナリ直ニ止ルヤ右足ヲ右へ引ナガラニ右拳ヲ振上テ甲者ヲ見込テ 次圖へ續ク

行連

後口捕其二

左斜メ寫圖

甲者ハ敵ヨリ右拳ヲ振上





既ニ打込ム乙者ハ右足ヲ踏込甲者ヲ右拳以テ
 同時ニ打込ベシ故下腹ニ力ヲ入テ右手ヲ横ニ
 文字ニ受留メテ敵ノ左腰ヲ左手ニテ抱込ミ直
 ニ次圖ニ續ク △此乙者打込ニ五指ヲ揃テ
 ルハ圖ノ方ガヨロシク爲ニ最モ誤ヲ出ス

行連レ

後口捕其三
 正面寫圖

甲者ハ敵ノ打込手首ヲ右
 手ニテ摑ミ我前へ右足ヲ
 右へ大キク開ト同時ニ敵
 ノ體ヲ強ク引ハ乙者ハ亂
 テ引レル故直ニ左足ヲ乙
 者ノ脊後ニ踏出シ同時ニ
 左手ヲ差延シ敵ノ左横腹
 へ我ガ體ニ引附敵ノ體ヲ
 我左股ニ乗掛ケレハ敵ノ
 右足ガ浮上ル故右手ヲ以
 テ乙ノ右足ヲ押上左手ハ
 充分ニ左へ廻シ腰ヲ下ケ
 テ下腹ニ力ヲ入直ニ次へ



行連レ 後、捕其四

正而寫

敵ノ妹崩レタルヲ故我
ガ體ヲ腰ニ力ヲ入左手
ハ左下へ廻シ 右手ハ
足ヲハチ上ルト同時ニ
(エイヤ)ト腰ト兩手ノ
三拍子揃ヘテ後へ投ル
ベシ 乙ハ早ク手ヲ打
起上リ殘心ヲ附形終
○此ハ各流ヨリ取合シ
テ成タル處ナリ尙今回
久富今泉兩先生ト余ノ
修正ヲナシタリ



陽ノ離レ 其一

左正面ヲ寫圖

此形ハ最初ノ出方ト同シ一雙
方其場所ノ中央迄進出テ三尺
距離ヲ量リテ對顔ス 甲者ヨ
リ乙者へ仕掛ルベシ 甲者ハ
右五指ヲ固メテ右足ヲ一步踏
出ス同時ニ乙者ノ兩眼ノ間へ
突出スベシ 乙者ハ此ヲ見テ
左足ヲ左へ一寸下リ直ニ次圖
ニ引續クベシ
△此ノ袴ハ甲者ノ袴ト乙者ノ
袴トガ間違ヒ畫師ノ誤ニ附島
袴ガ乙者ニテ二圖ヨリハ島ノ
袴ガ乙者ニ相成候間是ヲ正誤
ス



陽ノ離ノ 其一 左正面寫圖
 甲者ハ敵ハ右手ヲ固メ敵ノ眼中ハ突出セバ直ニ乙者ハ左手以テ五指ヲ揃ヘ左ヨリ横ハ拂落ナシ既ニ甲者ハ打込様ニナル 甲者ハ右腕ヲ拂ハレ敵ガ右拳ヲ振上ゲルトタシ直ニ敵體ニ抱附ベシ其様次圖ニアリ



陽ノ離ノ 其三

正面ヨリ寫圖

敵ガ右拳ヲ振テ居ル所我レ左足ヲ深ク踏込左手ヲ以テ敵ノ體ヲ背ヨリ抱込右手ハ敵ノ左股エ押當我右足ハ敵ノ左足先ニ押し直ニ次圖ニ續クベシ 乙モ振上タル右拳ハ甲者ニ抱止ラレタル故打下スヲナリガタク



○此ハ元扱心流ノ手ノ内ヲ修正ナシテ出シタル者ナリ
 最モ此ノ柔術ノ形ハ筆ニ書不畫ニ見セ不實ニ此度形ハ畫工ノ動ト云ベ
 シ 猶久富大先生ノ望ミニハ我レ
 覺ヘタル亂捕ノ新案妙手ヲ表裏ノ
 形ニナシ此ノ本ニ引續キ出版ナ余
 ニ談話有之尙畫師ニ實地要所ノ圖
 畫ヲ摸寫ナサシメ拳法同様ニ何
 人ニモ解シ好ク又何流議ヲトハズ
 極意ノ妙手ナレバ出版ノ日ヲ待尙
 賞セラレンコト望ム 幸線函 82-124



早繩捕縛圖解注意

總テ早繩ニハ種々アリ其數多クシテ大略實地必用ノ處ヲ記シ尙捕繩モ
 左ノ如ク流儀モアリ其種類ハ實ニ數ヘ難キ故四五種肝要ノ處ヲ記ス處
 最モ是ニ記載アル處ハ此ノ拳法ノ形ト同時ノ頃ニ警視廳ニ於テ各先生
 試驗ノ上挿畫ヲ以テ記載セシ者ナリ 早繩ノ心得注意ヲナス可キ者ハ
 警官ノ外ハ猥ニ人ヲ捕縛スベカラス我レニ武術ノ心得アリトシテ野山
 ニ行不意盜賊ニ出合組臥テモ必本繩ヲ掛ルベカラス假ニ縛シ置テ其近
 邊ノ警察署又巡查ノ交番處ニ訴ヘルベシ又宅ニ夜盜忍入タル此同
 ○捕繩製造法ハ麻苧ヲ極柔ラカク打三ツ緒ヲ網ミ細キ方ヲ好トス最モ
 繩ニ定法アリ早繩ニハ通常三尋半、五尋半、七尋半ヲ製スルナリ本繩ハ
 十一尋以上モアリ繩ノ色ニ註解アレ共別ニ必用無之爲ニ略ス又余ガ著
 ス柔術劍棒圖解及武道圖解秘訣ニ本繩圖解アリ故ニ現今必用ノミ記ス
 次回ニ壹章毎ニ挿畫ヲ以テ詳細ニ記載スレバ其説明ヲ良讀セヨ

◎釣繩圖解 脊寫圖

釣繩ヲ製造スルニハ第一鈎ハ双金ヲ以テ挿畫如クニ造リ寸法ハ一寸五分位ヲ善トス盜捕縛ノ切亂暴ヲナセバ耳ニ掛ルコトモアリ襟ニ掛タレバ手ノ掌ヲ抱合ニテ縛ルベシ
手節ト節トノ間ヲ凹タル

鈎繩其一



二其解圖繩鈎

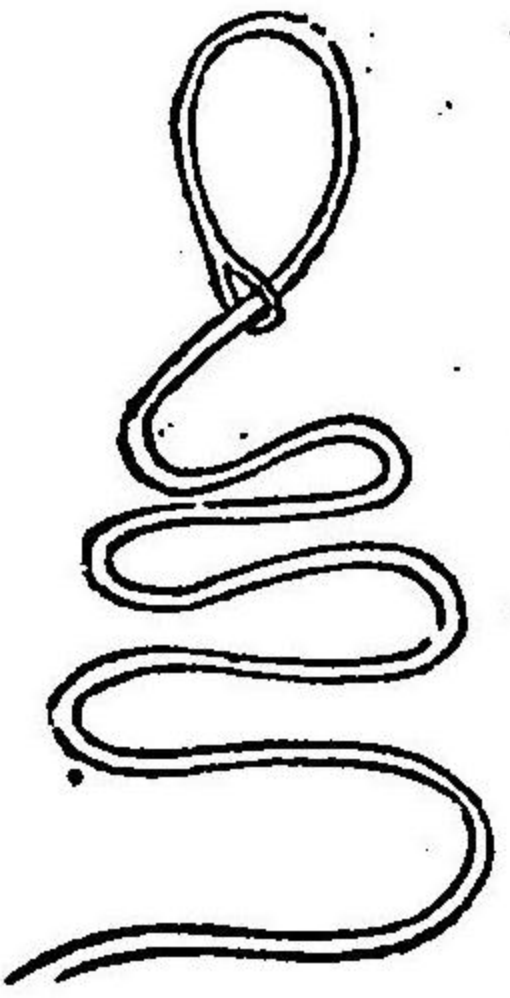


處ヲ二卷廻シテ左右ノ手開キ割リテ直ニ横ニ二卷廻シ襟下八寸ノ處ニテ是ヲ垣根結ビニシテ結止ルナリ最モ罪人ノ帶ヲ好ク締メテクベシ萬一鈎繩永クシテ殘レバ腰ニ卷附テモ善トス

捕繩圖解 其一 左斜メ寫圖

早繩捕繩モ捕押ヘハ挿畫ノ如ク成盜ヲ捕ヘルニハ盜賊ノ右手先ヲ摑ミ腕ノ節ニ左手ヲ添ヘ盜ヲ組臥テ其節ニハ我右腕ニ挿畫ノ環ノ處ヲハメ置テ盜ノ右手ニ我手ヨ

ノ繩先ヲ環
シテ通シタ
タル處



リ盜ノ手ニ運シ左膝ヲ盜ノ袴腰ニ押當右手ヲ曲ゲ盜ノ左肩口ヨリ腮ニ引掛ヌ様ニ咽ヘ廻シ次圖ノ如クニナスベシ



捕繩圖解 其二 左正面寫圖

左ヨリ右へ廻シ盜ノ咽へ掛ケテ萬一盜亂
 暴チナス時ニハ右足ヲ盜ノ右ニ腕ニ踏
 附左手ヲ折リ曲ゲ左手首ニ二卷繩ヲ附テ
 直ニ次挿畫ノ如クニ結ビ附テ又第三第四
 第五圖迄ニテ終ル最モ此繩モ襟元七八寸
 下ノ處ニテ結ブ

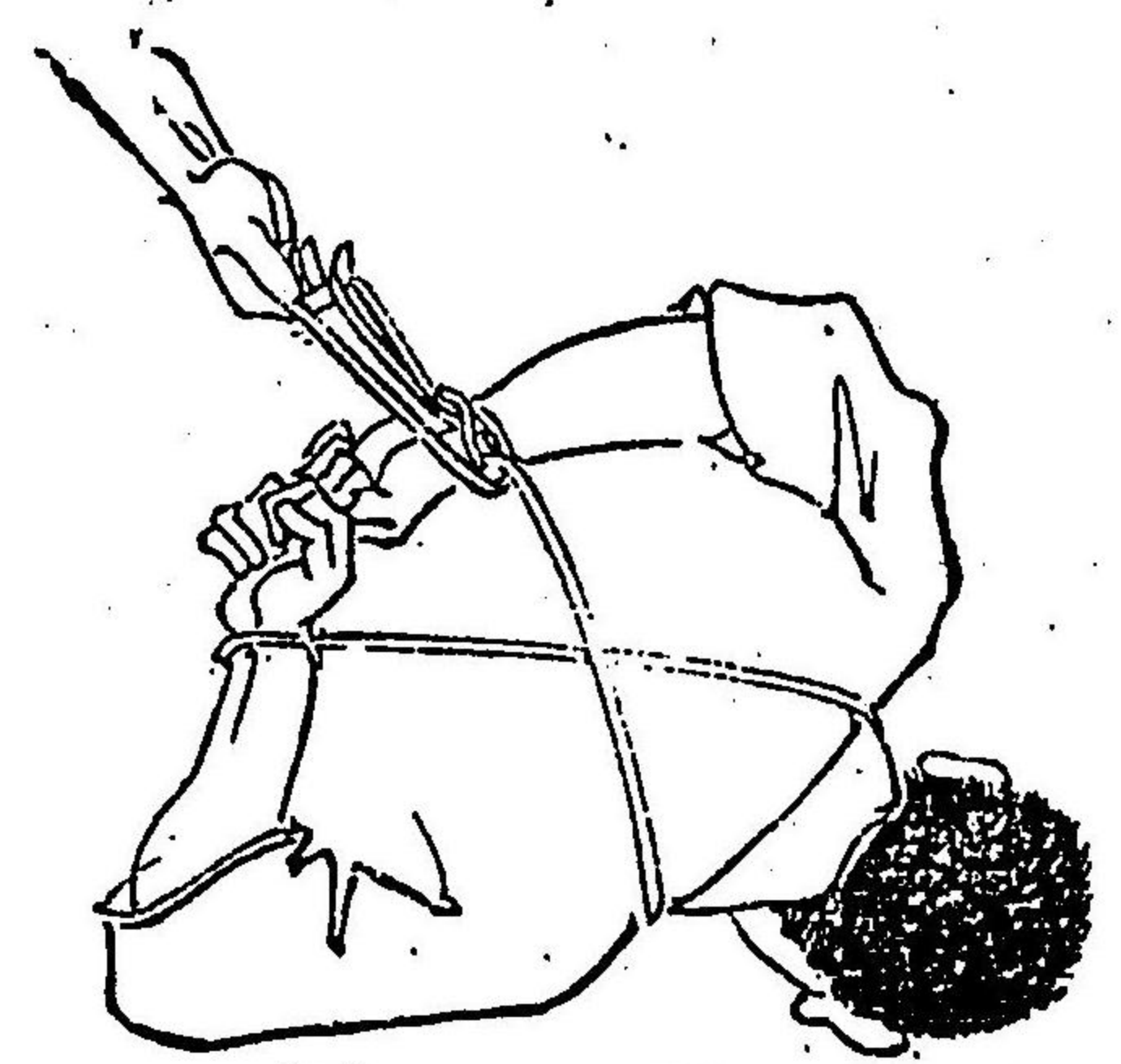
○此形ハ元武藤迪夫先生及今泉八郎先生
 大竹先生其他各流ノ試験ノ上ニテナシタ
 ル處ナリ此圖ハ今泉先生余ヲ縛シタル處
 ナ安達吟光摸寫スル圖ナリ



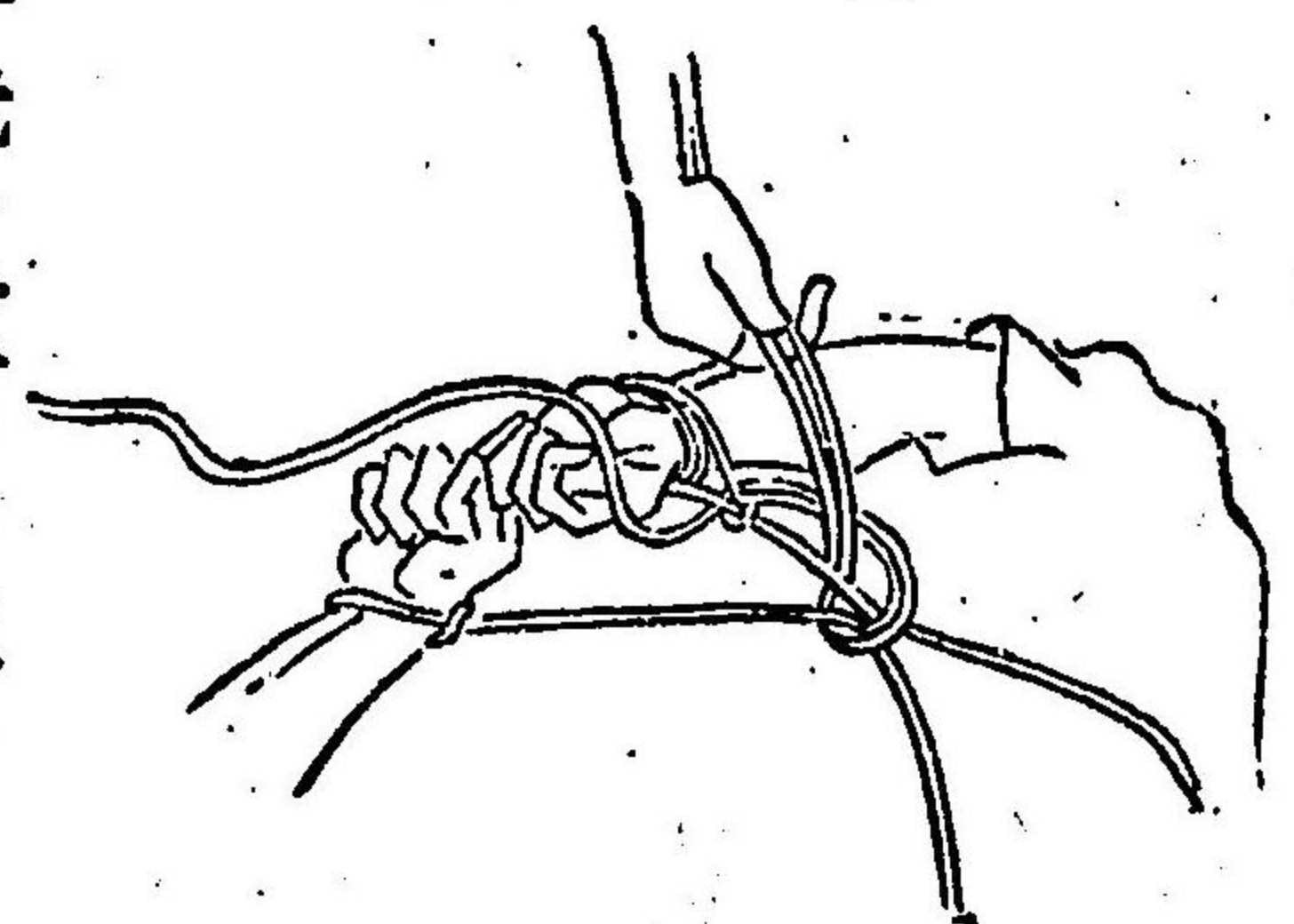
捕繩圖解 其三 四五 左斜ノ寫圖

第三圖解第二圖ニ手首ニ卷廻シ直ニ手元ノ第四ノ如ク左手ノ方へ廻シ
 テ引締直ニ第四圖ノ如クニ二本同一ニ又通シテ兩手首ニへ寄ルテ直ニ

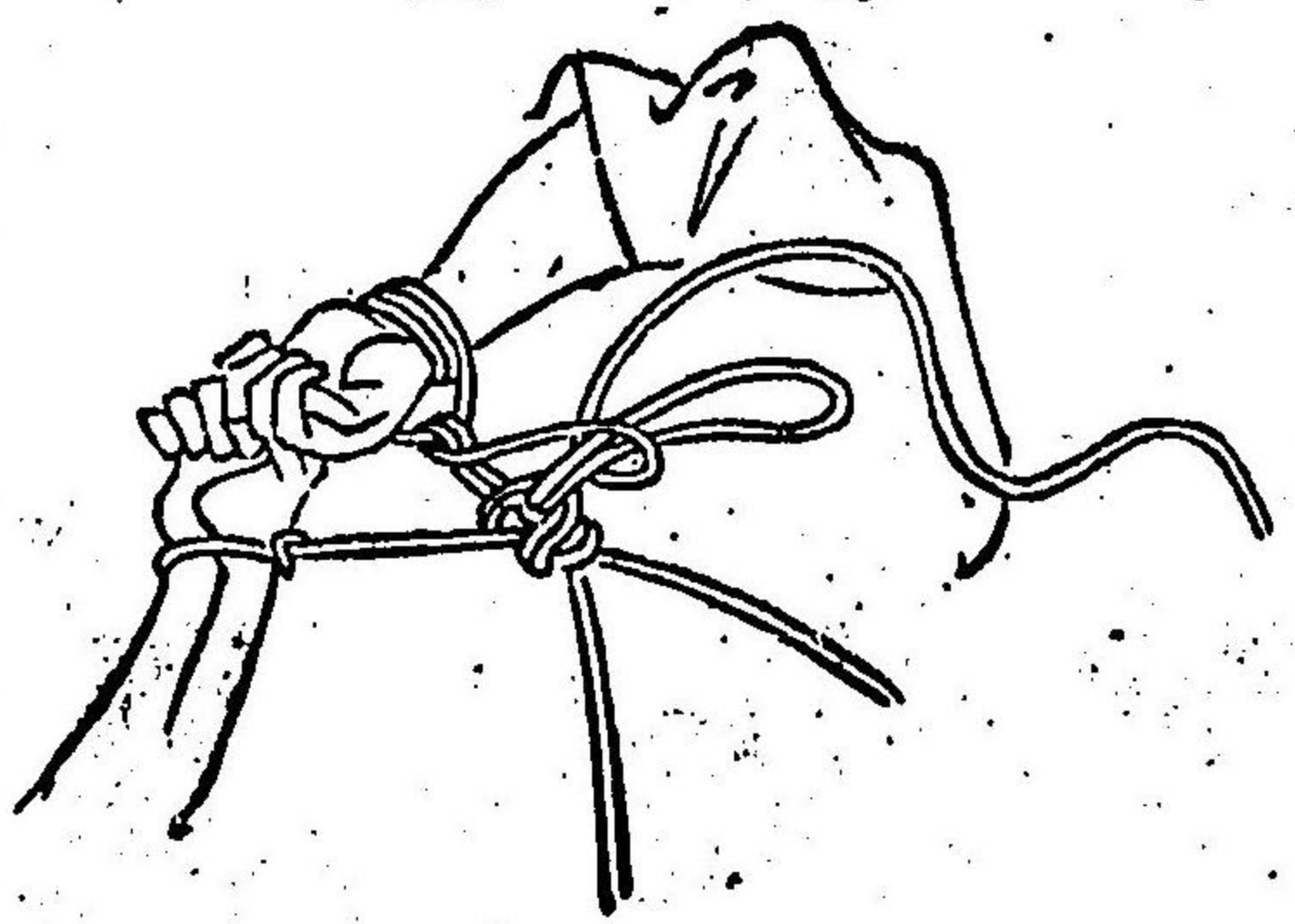
第三圖



第四圖



第五圖



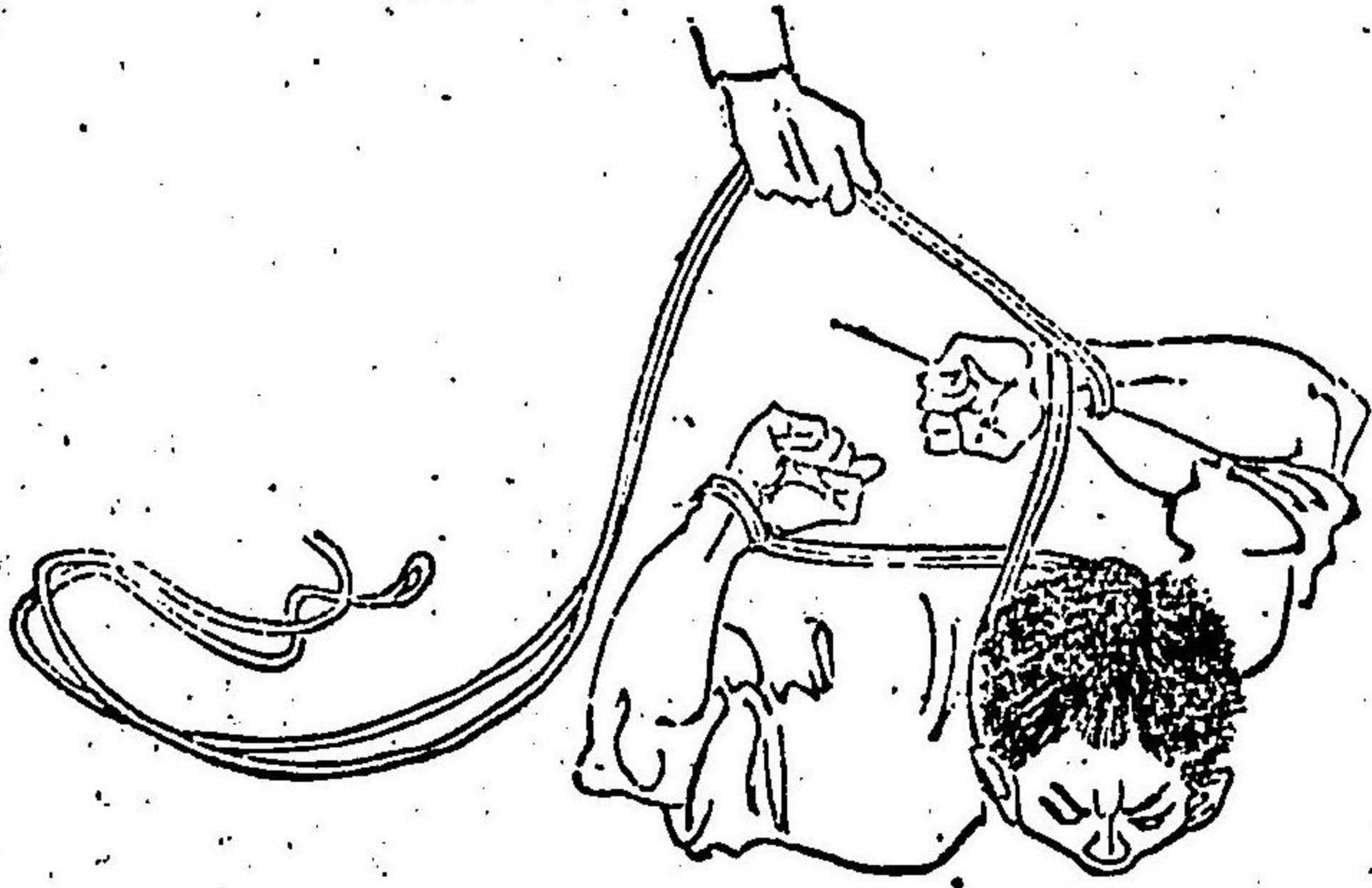
第五圖ノ如クニ尙好ク締メテ手先ヲ重チテ縛ルコトナウルベシ最モ形ハ
 四五ノ處ニ頭無トモ繩ノ處ヲ肝要故此處ヲ記スナリ

早繩圖解 其一 正面寫圖

此捕繩ハ二筋ニテ手首ニ圖ノ如クニ掛盜
 ナ倒シ其上ニ馬乘ニ股ガリ暴動ヲナス時
 ハ右耳下ノ處ヲ俗ニ獨古ト云處ヲ右拇指
 ノ先ニテ強ク押附テ左手ヲ曲ゲテ捕縛ス
 ベシ直ニ第二圖ノ如クニウツルベシ
 ○最モ此ノ形ハ大原正信先生關口流ノ捕
 繩ヲ講修シテ出シタル者ナリ
 △尙盜亂暴ヲナス時ハ前ノ如ク二ノ腕ニ
 足ヲ掛ケ踏附ルモヨシトス



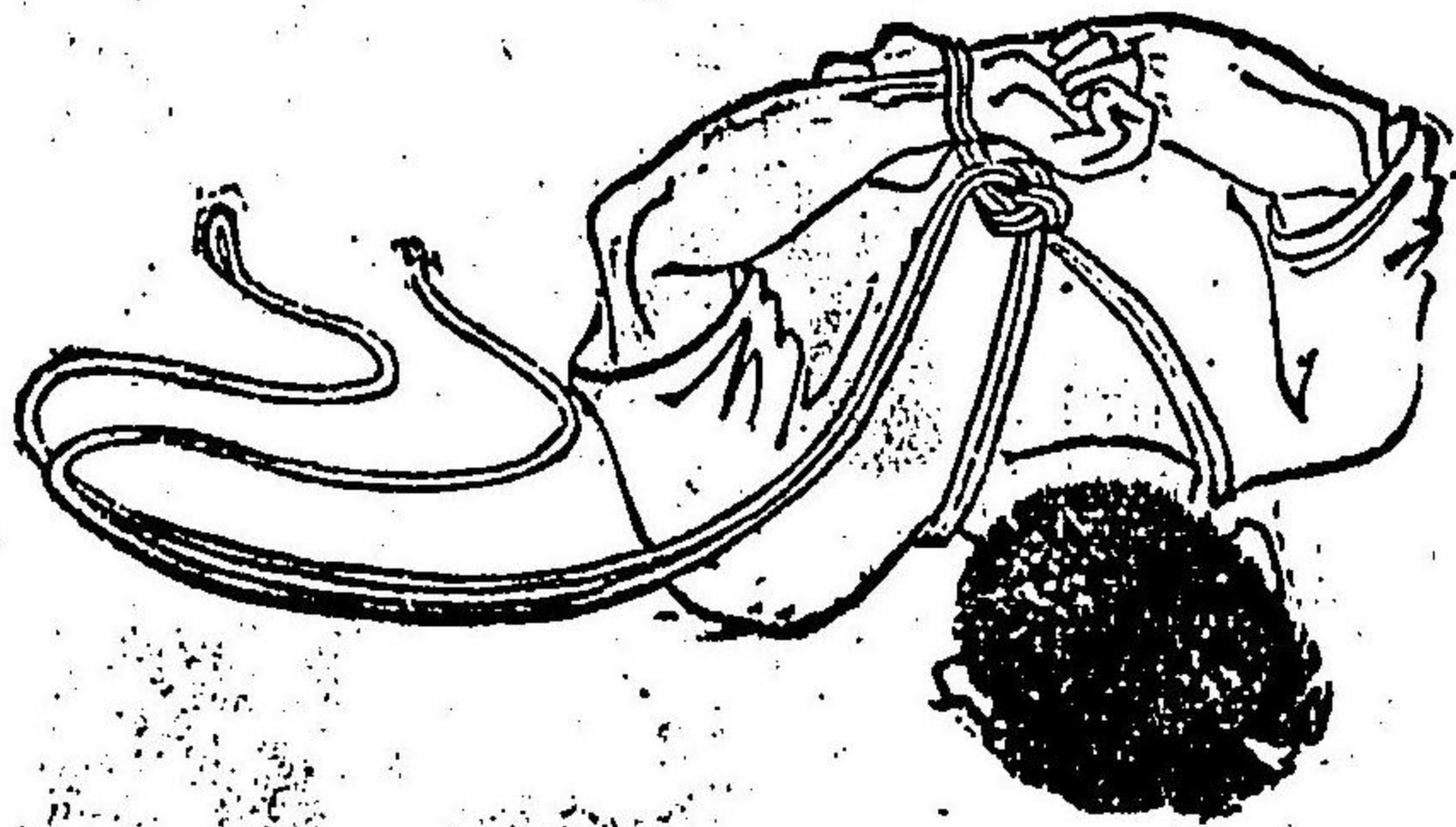
第三圖解



早繩圖解 其二 寫圖ノ處ハ前ニ同

此ノ如クニ左リ手首ニ
 卷附レバ第三圖ノ如ク
 ニ手ヲ引締メテ襟下八
 寸ノ處ニテ縛リ抱起ス
 ベシ最モ此形ニ於テハ
 一筋ノ繩ニテ縛リ兼々
 ル時ニハ二重ニテ縛ル
 處ヲ出スナリ第三圖ノ
 如クニテ終ル

第三圖解



捕繩圖解 其一 右正面寫圖

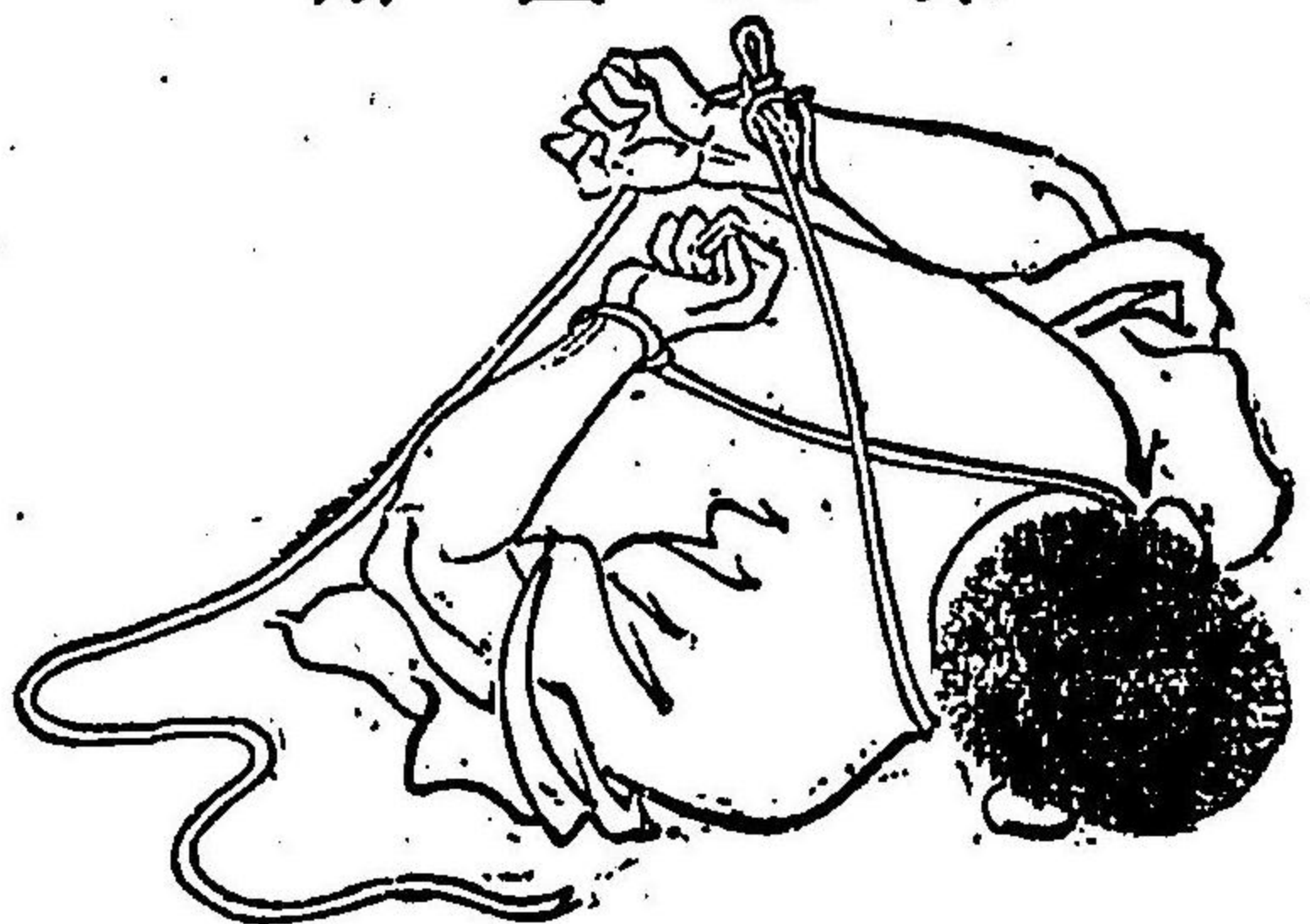
此捕繩ノ圖解ハ押ヘ方ハ各前ニ同ジ
 直ニ盜ヲウツ向ニ倒シ左リ足ニテ盜ノ
 二ノ腕ヲ強ク踏附テ前ノ如ク左肩口ヨ
 リ咽ヘ廻シテ引掛ケ左手首ニ二卷廻シ
 テ結ビ附ルベシ最モ此レハ酒ニ酔ヒ亂
 暴ナス者ヲ縛スルニハ第二圖ニ及ヒ第
 三圖ノ如クニナスベシ
 此形ハ故逸見宗助先生家傳立見流捕繩
 形ナリ



捕繩圖解 其二 寫ノ處ハ前ニ同

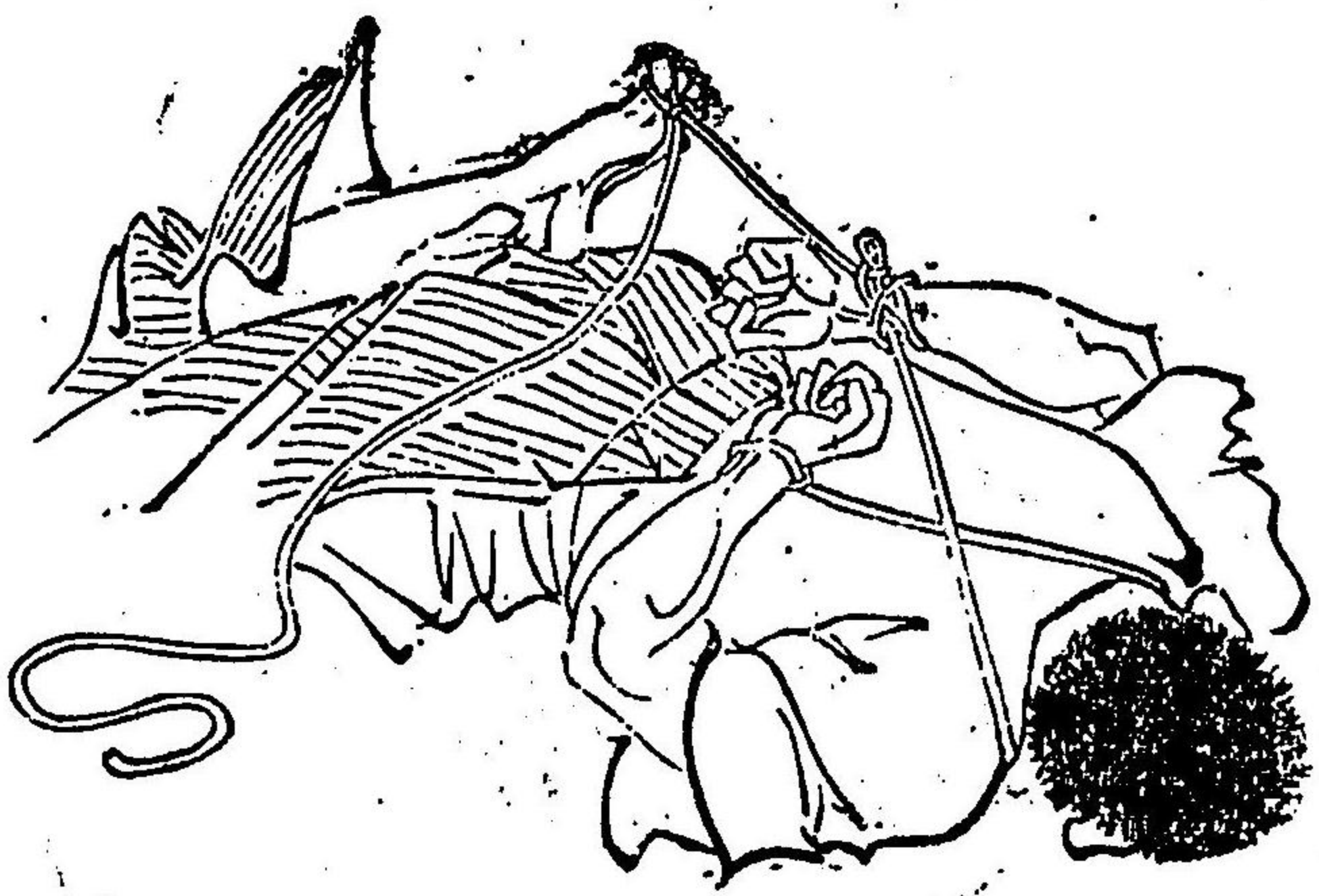
第二圖ノ如クニナシ締縛タレバ其儘ナシ置ベシ萬一亂暴ヲナス時ハ直
 ニ繩ノ残りヲ以テ

第二圖解



第三圖ノ如ク左右
 ノ内足ノ拇指一本
 ニ結附ルベシ倒シ
 置バ醉ノサメタル
 時ハ解クベキナリ
 警視廳ニ於テ各流
 先生ノ良法ヲ出ス

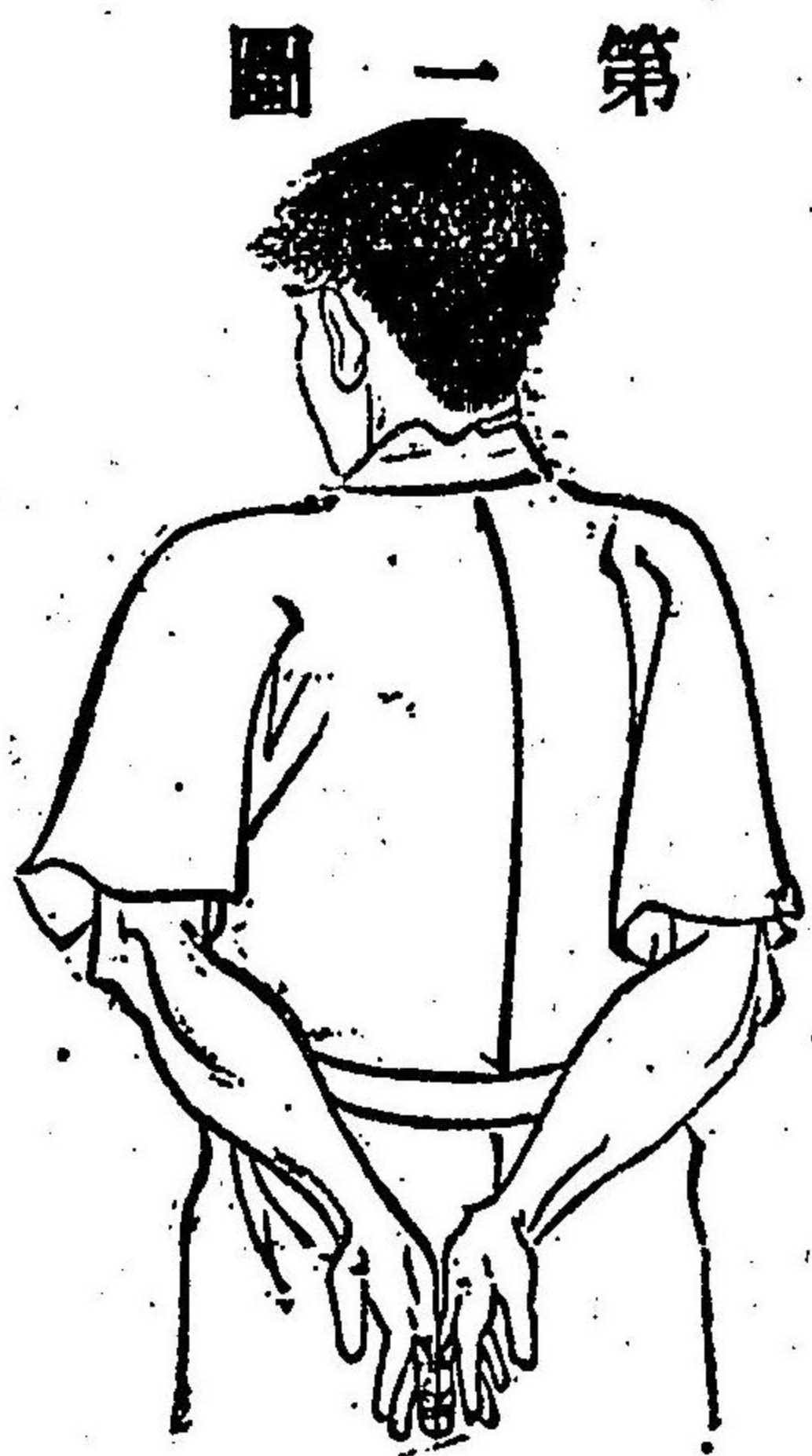
第三圖解



處ヲ記シヌ

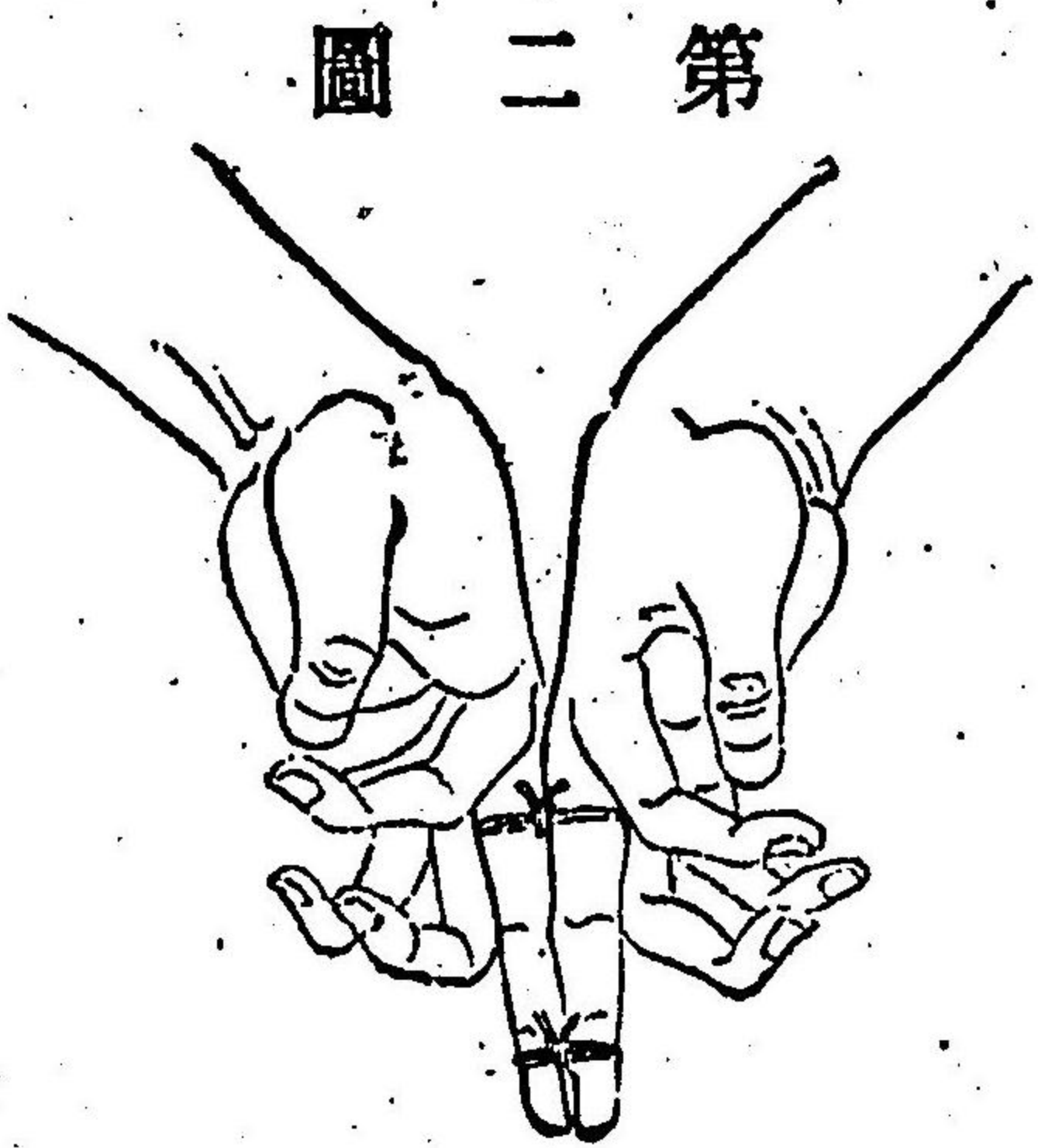
早繩圖解 背寫圖

此ノ早繩ノ製造方ハ麻苧極上等又絹絲ノ太キヲ用ヒ又元結紙緒ニテモ多勢ニテ繩ノ間ニアラザル時ニハ圖ノ如クニ縛ルベシ最モ第一圖ノ如ク



第一圖

ク手背ヲ合シ第二圖ノ如クニ中指ノ附根ト先節ノ處ヲ堅ク結ブベシ最モ博徒又一揆ナゾニハ繩ノ不足ノ時ニ前書ノ如ク五寸七寸一尺迄ヲ用ヒルナリ○此形ハ水野流ニテ國重重信先生ノ講修スル處ナリ



第二圖

早繩圖解 脊寫圖

此ノ形ハ兩拇指ヲ脊ト脊ヲ合シ充分ニ結附直ニ襟ニ通シ圖ノ如クナシ結附七寸繩ヲ用ヒタル處ナリ最モ急場ニテ繩ノ手廻リ兼ル時ハ前條ノ五寸繩ニテ好シトス其役等者ハ常ニ絹糸ノ太キ處ヲ人血ヲ以テ五寸七寸一尺等ヲモ製造シテ置キ柔ラカクナシ置ク急場ノ切ハ是ニテ充分ナルトアリ

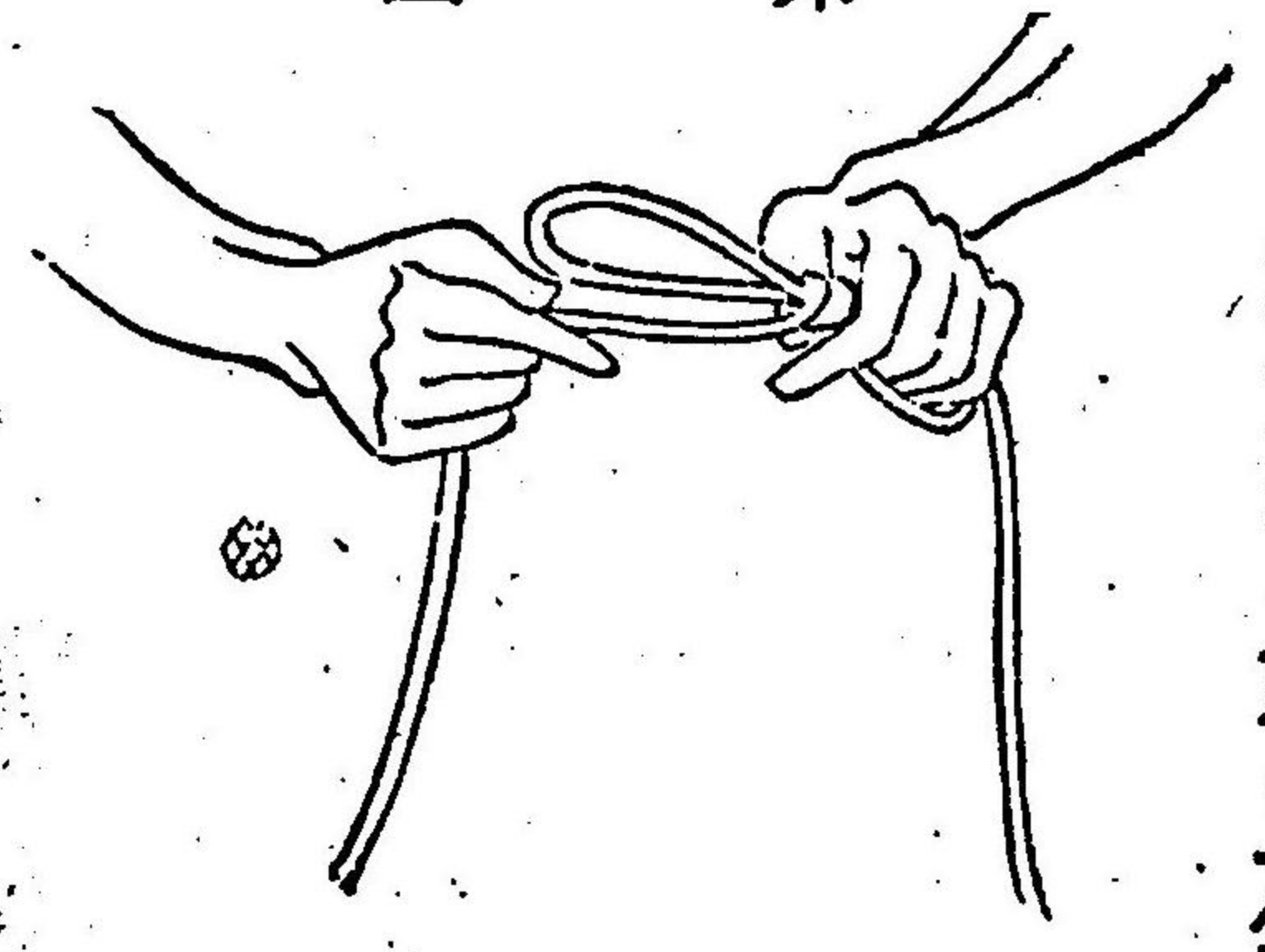
總テ繩ノ流儀ニ依テ此位多者無シト故ドモ其法ハ類ノ多イ丈ニテ長繩ヲ用ユルニアラズ故ニ此度著ス處ハ實地必用之處ヲ著ス者ナレバ各先生等ニテモ是ニテ充分ナルト余ニ聞セラレタル故大略ヲ記載ハ此餘ノ處ハ前ニ記シタル貳書ニアリ



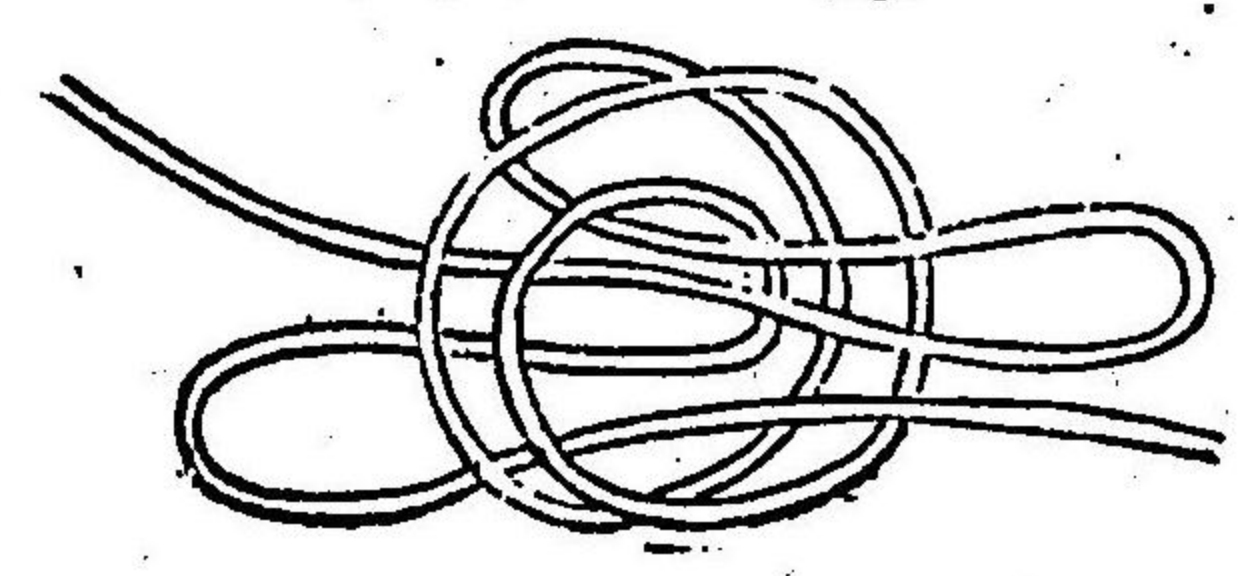
手錠繩圖解

盜賊及ヒ重罪ノ者ハ手錠ヲ掛タル上ニ繩ヲ以テ縛シ此ヲ腰ニ卷附ル
モアリ第一圖ノ如ク左手ニ繩ヲ一ツ環ニシテ内ヨリ一二ト二ツ卷

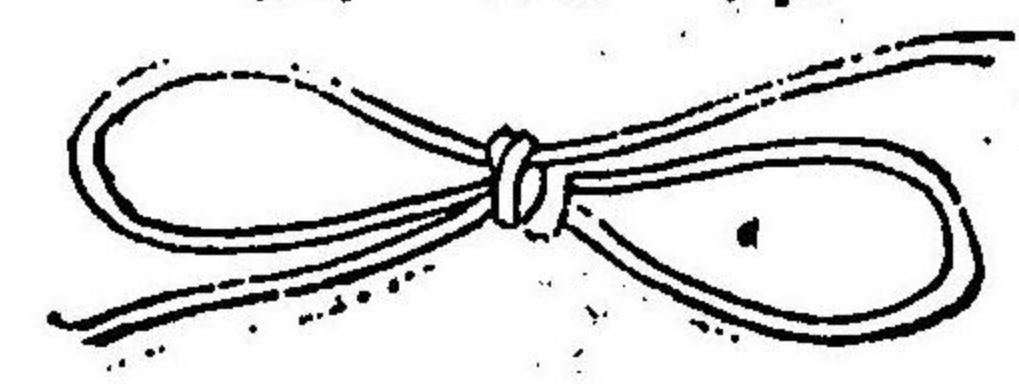
第一圖



第二圖



第三圖



第二圖ノ如クニナシ兩手首ニ掛ケテ繩ノ兩端ヲ持テ引ベ第三圖ノ如ク
ニ縮ル故手錠ノ下ニテ垣根結ニナスベシ都合ニ依テ二重三重卷ヲモア
リト知ベシ

活法圖解注意

總テ活法ヲ施スニハ武術ヲ好ム者ハ專要ノ處ナリ最モ此術ハ實地ニ當
リ其時ニ此術ノ役ニ相不成ハ其功無シ故ニ活法學ニハ常々ノ稽古ニア
リ毎日氣合ヲ入勇氣ヲ以テ充分ノ勵ヲナスヲ肝要ナリ只勵トハ死者ニ
向ヒ胸動氣ヲナシ水死、絞縊、落馬等各速死ヲ助ケルニハ我が心ヲ靜メ
其死者ノ救助法ニ注意スベシ最モ柔術家ノ秘密口傳是レアリ活法ノ内
ニモ其死ニ依テ術ノ施シ方モアリ是最モ注意肝要ノ第一トナス柔術先
生ニ於テモ目錄以上免許ニ相成秘傳ノ殺活ヲ許ス者成バ此書ヲ見タ斗
リニテ死者ニ向ヒ充分ノ稽古ヲ成サル内ニナスベカラズ著者堅ク禁シ
置者也余ハ最モ幾度モ死シ又他人ヲ活法ニテ蘇生サセシト數回アリ最
モ初心ノ者ニハ其術ノ功ナキハ氣合ノ不入ト手足ノワザ通シ難キガ爲
ナリ故ニ柔術稽古ヲ專務シテ活法術ヲ施ス稽古ナスベシ
次回ニハ死相ノ圖解ヨリ各流ノ活法圖解有之ト雖余ガ前述ニアル殺活
自在接骨療法柔術生理書ニハ當身活法術ヲ詳細ニアリ尙此書ニモ有リ

死相膽圖解

總テ即死首絞リ高キ處ヨリ落馬等ニテ氣絶
サナシタル者假死者ニ向ヒタレハ直ニ右脇
ノ處ヘ圖ノ如ク左膝ヲ突キ右膝ヲ立足ハ利クカ
テ何レニテカ
ナシ（生數）死者ノ兩手ヲ臍ノ下ノ所ニ重テ靜ニ死
者ヲ視ルベシ是最モ肝要ノ處ナリ第一死者
ノ様子ヲ能ク閱其上ニテ打處ヲ視テ眼中ヲ
視ル口ヲ開キ水月熱ミアルカ脇ノ下ニ脉ク
有バ必蘇生ナス者ナリ其廻リヲ靜ニナシ左
リ手ヲ枕ニナシテ抱起シテ次活ヲ施スベシ
最モ首絞死ハ糞ヲ垂レ居ルカ舌先ヲ齧バ術
ノ功ナキ故ニ先ニ死相ヲ視ルコトヲ勉ムベシ



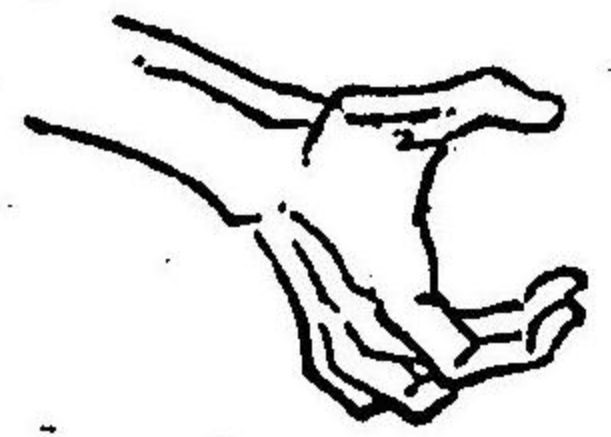
欠

MISSING

活法圖解

勝愈活 左正面寫圖

此活ハ死相ヨリ引續キ死者ヲ抱起シテ
 右膝ヲ突キ左膝ヲ立圖ノ如ク死者ノ右
 側ニ構ヘ左掌ニテ死者ノ誘活ノ處ニ押
 當右手ハ指ヲ中指ニ食指ヲ重テ挿畫ノ
 如ニナシ臍ノ下二寸餘ノ處毛ノ生基ノ
 處ニ押當死者ノ顔ヲ下ヨリ視上ゲテ左
 掌ト右指先ニ力ヲ入(エイ)ト右手ヲ押
 込様ト左ハ活處ヲ押テ死者ノ顔ヲ仰向
 ク様ニナシテ術ヲ施スベシ最
 モ此活法ハ元各流ヨリ出タル
 處ナレ共久富先生尙修正ノ處
 モアリ他ハ前書ニ全シテ故ニ
 之ヲ畧ス



活法圖解

心臟活法 橫左寫圖

此活モ種々施シタル後チ尙術ヲ施スベシ最モ此活ハ大事ノ活故口傳アリト云ヘドモ實地ニ能クキクナルガ充分之練磨ノ上ニテ施スベシ死者ニ股ガリ右膝ヲ突キ左チ立膝トナシ兩手ノ指ヲ組合シ死者ノ首ヲ抱ヘ込兩肘ヲ死者ノ水落ノ處ニ押當(エイ)ト聲ヲ死者ニ我カ意氣ヲ死者ニ呼吸ヲウツス様ニナスベシ此活ハ成丈後ニナスベシ最モ練磨ノ上ニハ極意ノ處故早ク蘇生ナス者ナリ天神眞揚流ナゾニテハ目錄以上ニテ師ヨリ許ス者ナレバ其心得ニテ實地ニ施スベシ

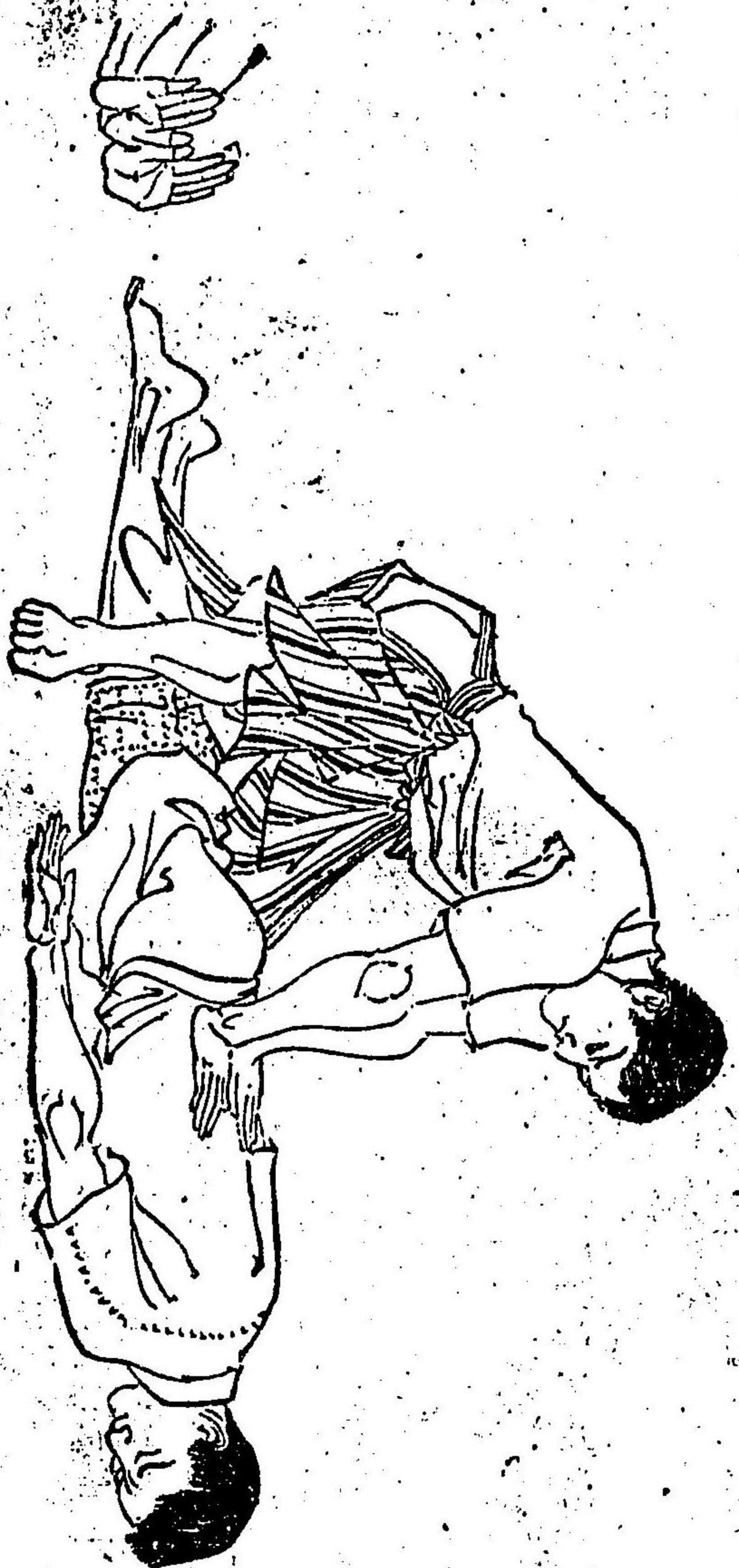
活法圖解

裏活左正面寫圖

此活ハ死者チ腹歩ニ寐シテ股ノ處ニ跨ガリ左膝ヲ突キ右膝ヲ立死者ノ裏腰ノ處へ挿畫如ク兩掌ヲ以テ點ノ處ニテ大腿骨ノ上ノ處ヲ押當



シテ生レ記其處傳ヲニチ意クテ注總詳解大チトノモ上聲ヒチニ氣合ト引理ハ載大略リ秘口法略餘ハスモ者チ活ニ生理ノ詳ノ活モリ共(エイ)入口腹合書讀ナリ故ス傳ニスハス者チ活ニ生理ノ詳ノ活モリ共(エイ)入口腹合書讀シ者ハタチニル秘於總是處注ハスニ書圖解者法前最押ノ結力



◎柔術專門接骨治療趣旨

予等二家ハ柔術教導及ビ接骨科療法ヲ以テ家政ヲ立ツ 武道モ一日
 維新後ハ廢止ノ有様ニ相成居ルト云共予等頃ヨリ引續キ未ダ一日
 モ欠クナク柔術教授ナシタル處近來日清戰爭以來ハ尙非常ニ増
 進歩ナシ門人ノ數ナ倍スモ警視軍人諸學校ニ於テモ餘課ニ武術ヲ
 強盛ニ至ル幸ヒ今度井口氏ハ書肆ト云共久富鐵太郎先生ヲ師トシテ
 獨稽古ノ書冊ヲ發行ナシニ附予等ガ頃警視ニ於テ世話掛リノ切ニ
 アル處ノ拳法ニ圖解ヲ加ヘ修正シタル處ヲ閱スルニ實ニ信切ニ出
 來タルバ萬一此書ヲ熟讀シテ尙解シ難キ者ハ速ニ我道場ヘ來レヨ
 予等無料ヲ以テ詳細ニ説明ナスヲ得 猶又接骨モ予等ガ累世業トス
 ル處ナリ之ガ疾患アル者ハ速ニ來ラレヨ丁寧信切ニ如何ナル難患ト
 云共直ニ治療ノ療法ヲ行フベシ

演武館館主

眞隆流柔術

今泉八郎

柳眞館館主

天神眞流流柔術

吉田千春

東京市下谷區同朋町一番地

東京市神田區錦町二丁目三番地

早繩拳法教範圖解後跋

皇國ノ尤モ貴重ス可キモノ武道ニ如クモノナシ茲ヲ以テ弓
 馬槍劍砲術柔術ニ於ケル士人タルモノ一日モ學ハスンハア
 ル可カラサルナリ就中柔術ニ至リテハ戰陣ニ臨ミ大ニ益ア
 リト雖モ亦自家護身ノ用ニ供スル他ノ武術ニ比スレハ其洪
 益タル予カ辨ヲ待タサル所ナリ予幼ヨリ此術ヲ學ヒ各先生
 ノ門ニ遊ヒ研究年久フノ其要領ヲ得且ツ自カラ發明スル所
 モ亦多シ古人曰ク達ノハ之レヲ人ニ能クスト敢テ達スト云
 フニアラサレモ己レノ爲メニ爲スノミナラス施テ此術ヲ世

ニ普及シ其益ヲ共ニ受ケント欲スル茲ニ年アリ然レモ戸毎
ニ傳ヘ人毎ニ教ヒンイカノ及フ可キ所ニアラス然ルニ恰モ
好シ書林井口主人頗ル斯道ニ篤志ニシテ且ツ其技モ亦長ス
ルヲ以テ其用法ヲ詳細ニ口授シ併セテ其形容ヲ圖シ一見其
大要ヲ得ルニ便ナラシム今此書ノ成ルヤ予ノ幸ナルノミナ
ラス世人モ亦必ラス幸ヲ得ンイヲ喜ヒ一言ヲ卷跋ニ之ヲ記
スト云フ

戊戌ノ五月上浣

眞蔭流 今泉 八郎 撰

欠

MISSING

正三位伯爵鷲尾隆聚公題字
正四位男爵藤村紫郎君題字

久富鐵太郎先生序文
吉田千春先生序校閱
磯又右衛門先生次序

今泉八郎先生跋文
安達吟光先生撰寫
井口松之助著述

死活自在 柔術生理書

總クロリス金字入頗美製
全一冊定價金八拾五錢二
千部限リ大特別金六拾錢
郵稅六錢郵券代用壹割増

此書ハ柔術ノ極意秘傳口傳奧儀ヲ公ニ著シ圖解ヲ以テ詳細ニ説明成タル處ハ柔術本儀、五條、護
身心得十條餘、脈管圖解說、當身圖解廿餘條、蘇生術心得並圖解五條餘、活法施術者心得並圖解
十八條餘、獸類活法要解、人躰骨圖解詳名、救急療法十餘條、接骨法並圖解八條並摺折症圖解
五條並藥用法二拾餘條、柔術極意口傳奧儀説明並ニ圖解十五條餘亂捕心得並ニ圖解締、逆手、廿
五條餘各大家ノ格言ノ辨ニ至ル迄ヲ書冊ニ綴リタレバ陸海軍々人ニ及諸學校教師生徒ニ至ル迄
モ尙武術ノ心得アル者ニハ勿論此書一讀シテ常々忘ルベカラズシテ遵守スベキモノナリ又武術
ヲ不知ト云ヘ共護身法心得置キ暗夜道中ニ難賊ニ出合トモ當身ヲ以テ一時殺シ死活ヲ自由自在
ニナスヲ得テ尙縛シテ活ヲ施シ蘇生サセ又救急法ヲ心得テ首縊水死高樓ヨリ落テ假死ナス者
ヲ直ニ助ケルヲモ一切前目錄ニ有之如ク故ニ最モ此書冊ヲ著スニハ予ハ拾有五年間ノ苦心ヲナ
シ諸流ノ先生ニ附テ種々説明ヲ聞又實地ニ施シ確實ヲ以テナシタレバ御講讀ノ上高評乞最モ一
課一讀千金ノ價値アル珍書ナリ

正三位 伯爵野津道貫君題字
正四位 重野安釋君題字
正五位 土山和夫君序
小湖女史跋文
日比野正吉先生著

神刀流 劍舞圖解教範

菊判美本全一冊金五拾錢
大特別金三拾錢
郵稅六錢
郵券代用壹割増ノ一

神刀流劍舞ハ 三才ノ童子ニ獨習ヲ得ラル、圖解ヲ見ルバカリニテ手ノ舞足ノ蹈處ヲ觀ルベシ
神刀流劍舞ハ 如何ナル幼年ニテモ此書ヲ見ル時ハ武術ノ心ヲ起シ勇氣ヲ増ノ珍書ト云
神刀流劍舞ハ 總テ武術ヨリ割出タル書ナレバ劍術居合柔術ノ體ヲ強成スルノ構ノ術アリ
神刀流劍舞ハ 氣合ト雄壯活潑ニ身ヲ起シ圖畫ヲ以テ手ヲ握リ師ニ教授ヲ受ルヨリ早シ
神刀流劍舞ハ 女子ニモ解シ好ク出來ル様ニアレバ扇子ノ使用法劍ノ拔差ニモ安全ナルヲシレ
神刀流劍舞ハ 他ノテモノ著ス者ト同一ニアラズ實地著述ト畫師ノ働ナル鑑覽ニ題ス如クナリ
神刀流劍舞ハ 一詩ニ圖畫廿五個餘有其順次ヲ見レバ如何成ル者ニモ平易ニ出來ルヲ得ル
神刀流劍舞ハ 十五詩ニ凡二百五拾個モ挿畫アレバ紙摺ノ最モ詳明成リテ云フニ保證ス
神刀流劍舞ハ 時今限日ノ出ノ先生ナレバ製本ト云滿天下ニ並ナキ劍舞ノ書冊ナルヲ大言ス
神刀流劍舞ハ 該本ニテ解シ難キ者ハ神刀館場道ニ來レ速ニ説明ヲナスヲ許

岡本半溪翁先生新著 安達吟光先生考書

新案 函庭盆石畫工造編

最近出版

該書ハ岡本翁ト吟光先生ト新案ノ箱庭ノ造リ方ヲ考ヘ盆栽培養法ヲ加エ四季絶景望遠日本名所ノ風雅ノ離形ヲ組立法ヲ以テ童蒙女子ニモ平易ク出來ルヲ考ヘ其小函ニ工造法ニ及ヒ植附又石ノ組形ニ至ル迄モ明細ニ記シアレバ其數モ凡百圖ニ近シ又盆畫ハ一シホ風雅ノ者成吟光先生ノ新案離形ニ及盆石雅珍ヲ總圖壹百五拾餘個ニシテ總テ畫學手本ニモ成又美術工場ノ參考ニ成様ニ兩先生ノ腕ハ畫筆ニアルノ珍書ト云フベキ者ナレバ四方君婦女史ニ至ル迄此一本ヲ購求アツテ實地眞形ヲ床ノ上ニ有テ望ヲナシ玉アリテ乞フ

正三位 伯爵鷲尾隆聚公題字
正四位 山岡鐵太郎君序
籠手 田安定君校閱 高阪昌孝氏著

千葉周作 劍術名人法

定價金八十錢郵稅四錢
大特別金二拾錢
郵券代用一割増ノ一

該書ハ著者多年千葉周作先生ノ内弟子ニテ實地經驗ノ上口傳秘傳ヲ受劍術名人法ヲ詳細ニ畫解ヲ以テ名人ノ秘術ヲ記載セシ者ナレバ予ガ大賣捌ヲ一手ニナシ青木嵩山堂ニ及魁眞樓二家ノ外ニハ賣捌ナキ書ナルヲ知レ

米國善亞頓原撰 日本人千葉繁譯述

通俗造化機論

全三冊合本一卷物クロース
金字入石版彩色數葉入正價
金八拾錢大特別金四拾錢郵
稅六錢郵券代用壹割増

此書ハ米國ニ於テ幾百萬部賣タルノアルヲ千葉先生米人ヨリ原書ヲ受テ婦女子ニモ解シ易ク
平カナ附ヲ以テ面白ク譯述ナシ又我出版ナシテヨリ今ニ至リ其數幾萬タルヲシラズ尙再々版
ヲ以テ美麗ナル插畫ハ鮮明ナルヲ他ニアリソノデモノ書ト違此ノ造化ノ書ニハ男女ノ兒供ヲ
自由ニ出來ヲアリ世界各國ニ體ナルヲノミテ記載アレバ千葉繁譯ノ書ヲ御購讀ヲ乞
醫學士水城學人先生校閱 武藤忠夫著述

男女自術造化機新論

和綴リ全一冊
石版畫數葉
正價金廿五錢
郵稅四錢

此書ハ極メテ美麗ナル石版精圖ヲ挿入シ造化機ノ組織ヨリ説起シ交合ニ關スル百般ノ事項ヲ細
羅シ出產育兒ノ法方ヲ詳説シ合シテ梅毒痲病等ノ治療法ト豫防ヲ精細ニ講ヲタレバ一々事項ヲ
舉グテ風俗ニ關スルヲ以テ略ス此一本ヲ携ヘテ自ラ壽命ヲ捨テス子孫ニ傳ヘル書ヲ豫防セラレ
ソヲ希望ス

金盛堂新版書目

淺羽肅也著

東京名所案内全

頗美製本全一冊
正價金貳拾五錢
郵稅壹冊金四錢

此書ハ來京者ノ爲ニ親切美麗ヲ旨トシテ小川一眞氏ガ東京名所古蹟ヲ諸官省等寫眞ヲ其儘銅板
ニ模版シテ其夕所ニ記錄ヲ載セテ東京市内十五區ヲ分ツテ一日ニ市内ヲ一覽シ書口ニ繪圖ヲ挿
ミ其行先ヲ見定メ書中ノ寫眞ト競覽アレバ旅客ノ者ハ風雨ニテ居ナガラニシテ見物シ凡百餘個
ノ寫眞名所圖ヲ掌覽ナスベキ者ナレハ地方ノ四方諸君ニ於テモ掌中ノ内ニ百里貳百里先ニテ充
分ノ樂ヲ盡ベキ珍書ナレバ婦女子ニ及ヒ御老人諸君ハ又一本ヲ座右ニ於テ之ヲ講讀有リテ參
照セラレ

弊堂ハ上野美術館内ニ於テ寫眞畫帖並ニ古代畫圖等ヲ美麗ナル新撰畫帖ヲ賣捌出張店アリ

武部瀧太郎著

東京一 目新圖全

石版奉書摺紙四枚續
彩色美麗全一帖
正價金三十拾錢郵稅四錢

本圖ノ要スル處ハ東京市内ヲ一目ニシテ其地形ハ元ヨリ道路舟車鐵道ノ交通ノ便ヲ瞭然ナラシムルニ有リ近頃他ノ出版ニ精穿完全ト評シテアルト云ヘ共予著ス處ノ者ハ洋式圖ヲ以テ解シ易ク目前ニ十五區ノ諸官省ヨリ名所古蹟道路ノ廣狹ニ及ヒ橋梁ハ勿論充分ニ開ベ誤謬ナキトヲ信ズ且ツ參照トシテ參謀本部ノ二萬分ノ一東京郵便電信局ノ區分圖市區改正圖內務省ノ五千分ノ一ノ圖等ニ據リテ最モ親切ニ編成其表ノ通り諸官衙、兵營、學校、病院、華族邸、會社、貴顯邸宅、公園、公使館、寺院、高名ノ商店、製造所、墓地、新聞社等ヲ記シタレバ一帖ヲ御購覽ノ上ニテ萬計ヲ乞

武部瀧太郎著

東京一目新圖全

石版奉書摺紙四枚續
彩色美麗全一帖
正價金三十拾錢郵稅四錢

本圖ノ要スル處ハ東京市内ヲ一目ニシテ其地形ハ元ヨリ道路舟車鐵道ノ交通ノ便ヲ瞭然ナラシムルニ有リ近頃他ノ出版ニ精穿完全ト評シテアルト云ヘ共予著ス處ノ者ハ洋式圖ヲ以テ解シ易ク目前ニ十五區ノ諸官省ヨリ名所古蹟道路ノ廣狹ニ及ヒ橋梁ハ勿論充分ニ調べ誤謬ナキヲ信ズ且ツ參照トシテ參謀本部ノ二萬分ノ一東京郵便電信局ノ區分圖市區改正圖內務省ノ五千分ノ一ノ圖等ニ據リテ最モ親切ニ編成其表ノ通り諸官衙、兵營、學校、病院、華族邸、會社、貴顯邸宅、公園、公使館、寺院、高名ノ商店、製造所、墓地、新聞社等ヲ記シタレバ一帖ヲ御購覽ノ上ニテ高評ヲ乞

魁眞樓出版書目録

各大家題字序文 井口松之助著述

各流 劍術極意教授圖解

最近七月中出版

本書ハ我國武技ノ元質ニシテ之ヲ講スル時ハ體格強健身心安穩ナルヲ得ルガ爲ニ事變ニ處シ不慮ヲ制スルニ靈敏快活ヲラザルハナシ今般各大先生等ニ秘傳ヲ受テ各流ノ奧備ニ圖解ヲ以テ著ス處ナレハ尙詳細ニ直心影流及警視ノ形ヲハツテ各流形槍其他ノ妙手ヲ吟光先生ノ撰寫ヲ乞ヒ其流儀ノ儘ニ筆畫ニ盡シ實際適要ノ手形ノ技術ヲ演シ完全ナル處ノ者ヲ著セテ最モ軍人警官諸學校教師生徒ニ至ル迄モ此書ヲ常ニ秘携スレバ面小手胴ノ道具ヲ要セス眞ノ形ノミヲ記スレバ出版ノ期日ヲ待必讀アラシトテ私道ス

劍術 大日本武術名鑑

正價金十二錢
郵稅二錢郵券一割増

此書ハ我國ノ有名ナル劍客ト柔術家流名並生國及町名道場ニ至ル迄凡二千餘名ヲ番附様ニ雅風ニナシテ掲載シタレバ一覽表トシテ一目ニ解シ得奉書摺銅版四枚續キノ者ナレバ武道ニ志願ノ諸君ハ必ス座右ニ一葉ヲ備ヘヨ

正三位伯爵鷲尾隆聚公題字

久富鐵太郎先生序文
今泉八郎先生跋文
吉田千春先生序跋
安達吟光先生撰寫
磯又右衛門先生次序
井口松之助著述

死者在柔術生理書

總シロース金字八頗美製
全一冊定價金八拾五錢二
千部限リ大特別金六拾錢
郵稅六錢郵券代用壹割増

此書ハ柔術ノ極意秘傳口傳奧儀ヲ公ニ著シ圖解ヲ以テ詳細ニ説明成タル處ハ柔術本儀、五條、護身心得十條餘、尿管圖解說、當身圖解廿餘條、蘇生術心得並圖解五條餘、活法施術者心得並圖解十八條餘、獸類活法要解、人骸骨圖解詳名、救急療法十餘條、接骨法並圖解八條並骨折症圖解五條並藥用法二拾餘條、柔術極意口傳奧儀説明並ニ圖解十五條餘亂捕心得並ニ圖解締、逆手、廿五條餘各大家ノ格言ノ辨ニ至ル迄ヲ書冊ニ綴リタレバ陸海軍々人及諸學校教師生徒ニ至ル迄モ尙武術ノ心得アル者ニハ勿論此書一讀シテ常々忘ルベカラズシテ遵守スベキモノナリ又武術ヲ不知ト云ヘ共護身法心得置キ暗夜道中ニ賊難ニ出合トモ當身ヲ以テ一時殺シ死活ヲ自由自在ニナスコトヲ得テ尙縛シテ活テ施シ蘇生サセ又救急法ヲ心得テ首級水死高樓ヨリ落テ假死ナス者ヲ直ニ助クルコトモ一切前目錄ニ有之如シ故ニ予ガ此書冊ヲ著スニハ實ニ拾有五年間ノ苦心ヲナシ諸流ノ先生ニ附テ種々説明ヲ聞又實地ニ施シ確實ヲ以テナシタレバ御講讀ノ上高評乞實ニ一課一讀千金ノ價値アル珍書ナリ

陸軍大將 伯爵野津道貫君題字
正三位 重野 安 釋君題字
正四位 重野 安 達吟光先生撰寫

法學博士 山和 夫君序
小湖 女 史跋文
日比野正吉先生著

神流 劍舞圖解教範

菊判美本全一冊金五拾錢
大特別金三拾錢
郵稅六錢
郵券代用壹割増

神刀流劍舞ハ 三才ノ童子ニモ獨習ヲ得ラル、圖解ヲ見ルバカリニテ手ノ舞足ノ蹈處ヲ知スベシ
神刀流劍舞ハ 如何ナル幼年ニテモ此書ヲ見ル時ハ武術ノ心ヲ起シ勇氣ヲ増スノ珍書ナリ
神刀流劍舞ハ 總テ武術ヨリ割出タル書ナレバ劍術居合柔術ノ體ヲ強成スルノ權ノ術アリ
神刀流劍舞ハ 氣合ト共ニ活潑ニ身ヲ起スナド圖畫ヲ以テ一々明示スレバ手ヲ握リ師ニ教授ヲ受ルヨリ早シ
神刀流劍舞ハ 女子ニモ解シ好ク出來ル様ニアレバ扇子ノ使用法劍ノ拔差ニモ安全ナルヲシ
神刀流劍舞ハ 他ノヲモノ著ス者ト同一ニアラズ著述ノ實踐ト畫師ノ織巧トハ既ニ世人ノ普ク知ルトコロナリ
神刀流劍舞ハ 一詩ニ圖畫廿五個有餘其順次ヲ見レバ如何ナル者ニモ平易ニ出來ルコトヲ得
神刀流劍舞ハ 十五詩ニ凡二百五拾個モ描畫アレバ紙摺詳明一々眞ニ迫ル
神刀流劍舞ハ 時今日ノ出ノ先生ノ好著トシテ云滿天下ニ並ナキ劍舞ノ書冊ナルコトヲ大言
神刀流劍舞ハ 該本ニテ解シ難キ者ハ神刀館場道ニ來レ速ニ説明ヲナスコトヲ許

米國善亞頓原撰 日本入千葉繁譯述

通俗進化機論

全三冊合本一卷物クロース
金字入石版彩色敷葉入正價
金八拾錢大特別金四拾錢郵
稅六錢郵券代用壹割増

此書ハ米國ニ於テ幾百萬部賣タルノアルヲ千葉先生米人ヨリ原書ヲ受テ婦女子ニモ解シ
易ク平カナ附テ以テ面白ク譯述ナシ又我出版ナシテヨリ今ニ至リ其數幾萬タルヲシラズ
尙再々版ヲ以テ美麗ナル挿畫ハ鮮明ナルヲ他ニアリフリノアモノ書ト違此ノ造化ノ書ニハ
男女ノ兒供ヲ自由ニ出來コアリ世界各國ニ備ナルヲノミテ記載アレハ千葉繁述譯ノ書ヲ御
購讀ヲ乞

岡本半溪翁先生新著 安達吟光先生考書

補正庭盆石圖編

既版

該書ハ岡本翁ト吟光先生ト新案ノ箱庭ノ造リ方ヲ考ヘ盆栽培養法ヲ加ニ四季絶景望遠日本
名所ノ風雅ノ雅形ヲ組立法ヲ以テ童蒙女子ニモ平易ク出來ルヲ考ヘ其小函ニ工造法及ヒ
繪附又石ノ組形ニ至ル迄モ明細ニ配シアレバ其數モ凡百圖ニ近シ又盆畫ハ一シホ風雅ノ者
ニテ吟光先生ノ新案雅形及盆石雅珍ノ總圖壹百五拾餘個ヲ蒐メ總テ畫學手本ニモ成且美術
工造ノ參考ニ兩先生ノ工夫ヲ用ヘタル珍書ト云フベキ者ナレバ四方君子女史ニ至ル迄此一
本ヲ購求アツテ實地眞形ヲ床ノ上ニ摸セラレシコト亦消閑ノ餘樂ト云フベシ

岡本半溪翁校閱 安達吟光先生撰寫著述

實檢盆接木培養圖解

美製本全一冊
大特別正價四拾錢
郵稅金六錢

世に接木花卉の栽培書少なからずと雖ども皆な學者の空論にあらざれば舊式の古書なり西
説に拘泥するものは翻譯論にして日本皆無の草花の栽培を述べ舊式のものには迂遠の法を説
く能く兩者を斟酌して實用に供するものは本書を措て他にあらざらむ翁の本書を著すや英
國公使館雇人の庭園師に就て訂し自ら試み西説を執り邦式に倣ひ四時各期の草花木竹數百
種の栽培を網羅し肥土肥料土壌早咲接木取り木萬年青百合撰種等百般のたとに至るまで
記して漏すなし幸に一本を座右に備へて四季の友とせられよ

最新大家演說集

洋裝全一冊正價金三十錢郵
稅金四錢郵券代用必一割増
のと表題に注意を乞ふ

本書は紛擾錯綜せる社會現時の狀態を映出せる明鏡と云ふべく其映ずる處は何々ぞ即ち清
國視察、増租、鐵道國有、臺灣統治、軍事、鐵毒事件、勞働問題等の政治外交經濟に關る諸問題
にして何れも山縣、松方、桂、伊藤、大隈、谷、金子、三浦、島田、田口、武富、工藤、鈴木、萬次
郎、後藤、伊澤、大澤(介雄)、田中(正造)、バレンシア、脚の口演にかゝるもの實に甘餘篇の
多きに及べり、彼の龍驤虎鬪風雲雷雨の偉觀を呈するもの此の書を措いて他に見るべから
ざるの良書なり

實地裁縫教授新書

近刻

正三位伯爵鷺尾隆聚公題字 正三位子 爵海江田信義君 次題
日本中學校校長杉浦重剛先生序 久富鐵太郎先生校閱井口松之助著述

新法三術練習圖解一名

全一冊 定價金五十錢
大特別正價金廿五錢

此書ハ元警視廳ニ於テ數年間試驗ノ上柔術家十六流義ヨリ妙手ヲ撰ビ其形ニ安達吟光失生
實地有益ノ珍書ト云フベキ者ナリ 郵稅一冊金四錢
此書ハ加ヘ如何ナル者ニテモ手ヲ以テ教ヘルコトヲ得ラル、ノ珍書ヲレバ此ノ一本ヲ求メヨ

司法大臣正三位清浦奎吾先生題詞 齋藤孝治 合著
辨護士從四位礒部四郎先生序文 內田晴耕 合著

政府縣郡制釋義

全一冊 正價金七拾五錢
郵稅金八錢

本書ハ自治制ノ下ニ生活シ公民タル者ノ必ラズ知ラサルヘカラサル法規ナリト雖モ只々正
文ヲ讀ミ以テ足レリトセス然ルニ著者ハ多年東都狀師會社ニ其人アリト普ク世人ニ知ラレ
タル東京辨護士會副會長明治法律學校各員辨護士齋藤孝治先生及內田晴耕先生ノ合著ニ繫
リ各條下ニ於テ字句ノ說明ト意義ノ解釋及實例等ヲ摘示シ又々疑義ニ向テハ諸學說ヲ引證
ト初學ノ徒ヲ求メテ坐右ニ供セラシムルノ其書ナリ今ヤ斯法實施ノ期ニ際シ滿天下ニ願タ
ト欲ス請フ求メテ坐右ニ供セラシムルノ其書ナリ今ヤ斯法實施ノ期ニ際シ滿天下ニ願タ
礒部四郎先生跋文 辨護士齋藤孝治先生著

不動産登記法釋義

最近出版

辨護士齋藤孝治先生著 一冊 郵稅金八錢
此書ハ如何成者ニテモ一讀ヲ待テ解釋ヲ得ラル、ノ其書タリ最モ此書ハ他ニ有リフ、レノ書トハ違ヒ著者ノ名儀ヲ調御ノ上
ニテ御購求アル

各有名先生撰集

古今川柳三千題

最近 頗美製本

此の書は古川柳の通り句を上段にあけ最近世の開化川柳を下段に組合せ古今の名吟を五千
題撰出し掌中畫入美製の良本なれば出版の日を待ち御購求のほどを願升

滑稽笑談會

最近 頗美製本

此の書は三柳兩派の落語家名人と府下吉原を初め四宿洲崎の藝者やをいらんの各句名吟葉
唱替明文入茶番手踊り道化に駄洒落を畫入で一讀すれば一句ごとにあはれずし寄義太
夫ちやり文句あはれだら経やら大通う言の碎文句品寄文句ころし多實に世上の穴さがし求め
て御覽ん此の本命の洗たく臍のやどかると云ふ珍無類の笑談會アハ
岡本半溪翁著 中島春郊先生模寫

諸鳥飼養法秘傳

頗美本全一冊 正價金卅五錢
郵稅金四錢

此の書は諸鳥の圖をしめし飼養法の秘傳を著し毛色羽色瓜までも諸鳥生殖ならし方其他圖
畫にて解しよく戸外の飼方ならし方其數壹百餘種に壹々圖解にしるしあり諸方君子に此
本を座右に納めて實地必用のためしにて自慢して賣出す出版元

明治法律學校講師 藤才一先生序文
帝國大學講師 陸軍教授 岡村 司先生序文

明治法律學校校長 士岸本辰雄先生演說掲載

明治法律學校を友高松豊次郎君著述

痛恨悲壯 新大演說集

全一冊 正價金廿五錢 郵稅金四錢

本書は著者が温習の餘暇教科の諸書に據りて最新の學說を掲げ亦政治道德宗教教育勞動問題等社會に於ける方今の現象に付き壯快適實なる論鋒を以て私見を陳じたるものにして其問題を列擧せば法律思想と權利の概念(岸本辰雄先生)政治とは何ぞや政府の起源及び職掌の權限に就て、善長なる政府の組織とは何如、國務大臣の責任とは何ぞや、國家に對するは果して義務同胞中の死瀕兒とは誰ぞ、政治機關の原動力は何れに在る乎、獸行を恣にするは果して暴徒なる乎、税源の涸涸を充實せざるべからず、文明誘入の配劑を誤る勿れ、列強國を制するは國際的の概念を普及するに在り、徒食階級を増加せしむるは國を危くするものなり、嗚呼宗教を如何せん、教育家の警鐘を促がす、東洋平和の大業は我大日本國の實務なり、世界の趨勢は今や急流直下に在り、京釜臺灣兩鐵道に就て當局者に實す、近來何ぞや宗門の騷擾するや、大政治家としての大隈伯、高等教育會議に望む、立憲政治の一大環璣、萬國の平和會議、東洋に於ける日本の地位、學生の墮落を思ふて國家の前途を憂ふ、書生論、幸不幸の哲理的の概念、名實相伴するの文明は、虛名の發達なり、列國の平和將に破れんとす鞏固なる内の組織を望む國際干渉とは何ぞや、轉國を如何せん、體育と武藝、等にして卷首に辯論の心得及び演說の心得を詳説し全問題を擧げて辯舌練磨の用に供せんとするの目的に出たるものなり

横濱生絲検査所 長正七位 高橋信貞君撰

世界 產繭標本寫眞

全二葉 解説一冊付 實價 金廿錢郵稅金四錢

繭は生絲の前身にして生絲は繭の後身なり故に繭佳良ならざれば生絲も亦佳麗ならざるは大昔之を知る然れども繭種は一定の方針を定むるに方り況んば内外の産繭に就き研究を要するや勿論なるを以て同君が採集せられたる各種の標本に就き更に標本を附するものなれば苟も蠶絲業の改善に志ある諸君は坐右に缺くべからざるの良書なり

司法大臣清浦君題字 磯部四郎先生序 辯護士齋藤孝治著

最新民法要義

最近刻ボツケット入舶來洋紙頗美製全一冊紙數五百餘頁正價金五拾錢郵稅四錢

高橋信貞君編述

米國シカゴ府閣龍 世界大博覽會出品 繭生絲解說

全一冊 實價十五錢 郵稅貳錢

本書は新業に精通の譽れある高橋信貞君が米國シカゴ府に開かれたる世界博覽會出品繭生絲の解説としてものせられたるものにして先づ筆を日本蠶業の沿革に起し次に本邦に於ける桑及び蠶の重なる種類に就き其得失を論じ延びて現時の蠶業及び製絲法を詳叙し而して日米間に於ける蠶絲貿易の盛況に論及し將來の展望として彼我國民の親睦和衷進歩を共にし利益を共にし彼我身勢の發達を遂ぐるの要を述べ述して其旨を結ばれたる簡明無比の良書たり新業に關係ある諸氏請ふ御腹讀あらむことを

して學理的に明晰周到の釋義を下し現行條約と新條約の歴史を掲げ比較して其の利害得失を論究し加ふるに關係公文を以てせり江湖の志士幸ひに愛讀の榮を賜へど云

法政協會編纂

各國新條約正文

附關係公文

洋裝全一冊紙數四百頁
定價金卅五錢郵稅金四錢

本書は日英、日獨、日露、日佛、日米、日清、六大國其他十有餘國の新條約正文を蒐集して洩さず加ふるに關係公文を掲げたり夫れ新條約によりて居留地は撤去せられ多國民の憤慨したる領事裁判權も亦た廢止せられ内地雜居の事も眼前に迫れり此際於て新條約の本義を講究して内外人の權義職分を知るは今日の最大の急務なり江湖の士人幸ひに一書を求めて座右に備へられよ

徵笑小史大橋義著

東京古蹟誌

一名古墓之露

全壹冊

正價 參拾錢
郵稅 六錢

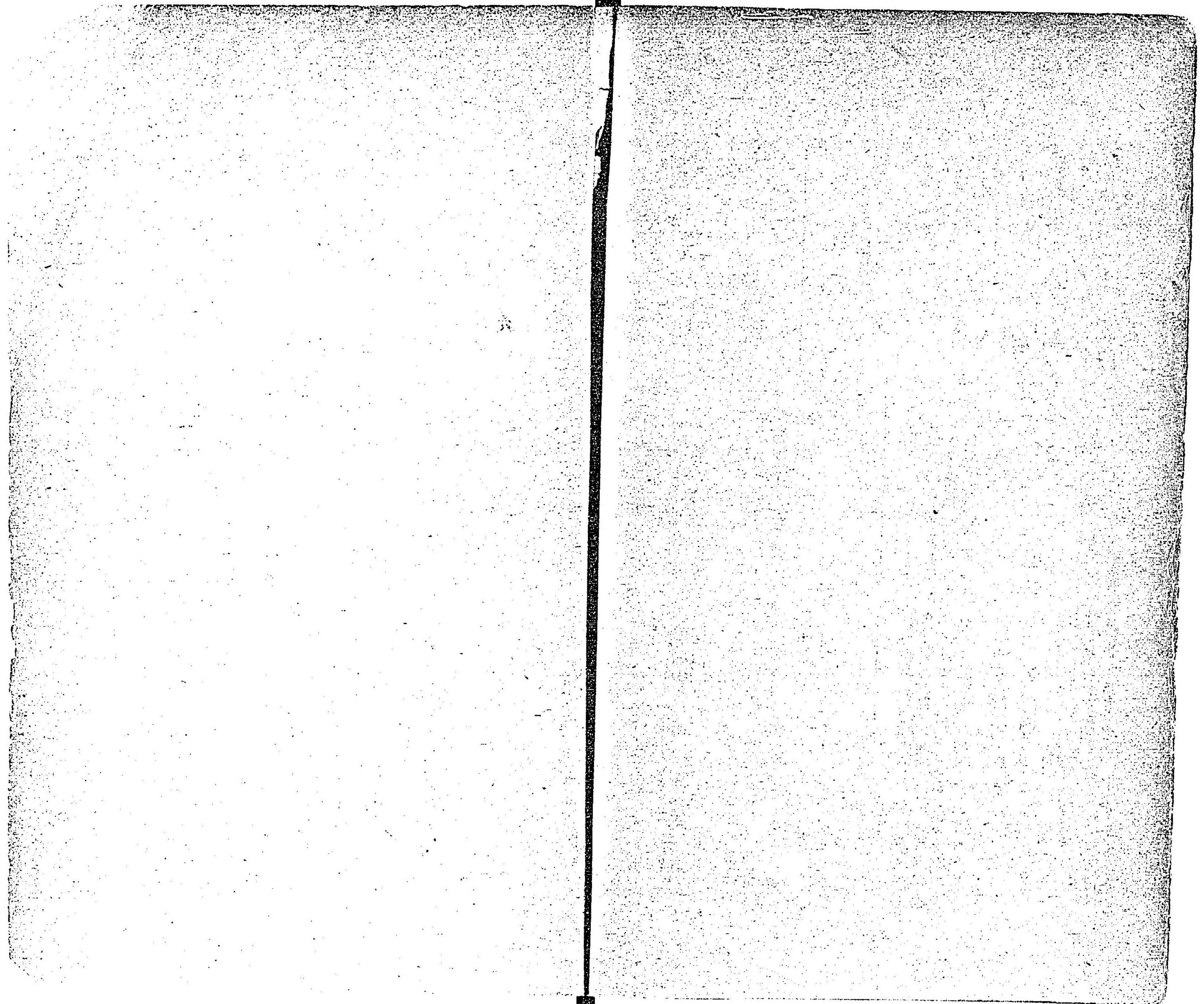
上は政治家文學者より畫家書家醫師俳諧師或は又俠客奇人の類下て情死の男女刑死の盜賊に至るまで荷くも世に聞へし者の墓は盡く載て漏すこと無く其傳記を載せ其詩歌を載せ又其圖を挿むものあり且世人の未だ知らざる逸事を擧げ又古來よりの誤謬を辨せる等眞に古今未嘗有の珍書とは是のみ

發行所

東京市神田區
雉子町卅二番地

岡崎屋書店

(電話本局一四八番)



82
124

東京大賣場

日本橋區通一丁目 大倉書局
 日本橋區通三丁目 善書堂
 日本橋區通三丁目 櫻堂
 日本橋區通四丁目 平次郎
 日本橋區通四丁目 友三郎
 日本橋區本石町 朝月堂

日本橋區本石町 小喜右衛門
 日本橋區大傳馬町 友吉
 日本橋區大傳馬町 三郎
 日本橋區大傳馬町 三郎
 日本橋區大傳馬町 三郎

全國一手中 大賣場
 神田區表神保町 東京堂
 神田區表神保町 東京堂
 神田區表神保町 東京堂
 神田區表神保町 東京堂
 神田區表神保町 東京堂

青木嵩山堂
 京橋區弓町 孫吉
 京橋區船屋町 孫吉
 京橋區船屋町 孫吉
 京橋區船屋町 孫吉
 京橋區船屋町 孫吉

芝區南佐久間町 栗原書店
 芝區南佐久間町 栗原書店
 芝區南佐久間町 栗原書店
 芝區南佐久間町 栗原書店
 芝區南佐久間町 栗原書店

版權所有

明治三十一年五月十四日印
 明治三十一年五月十七日發
 明治三十一年五月廿三日再版
 明治三十一年六月改題
 明治三十一年六月再版

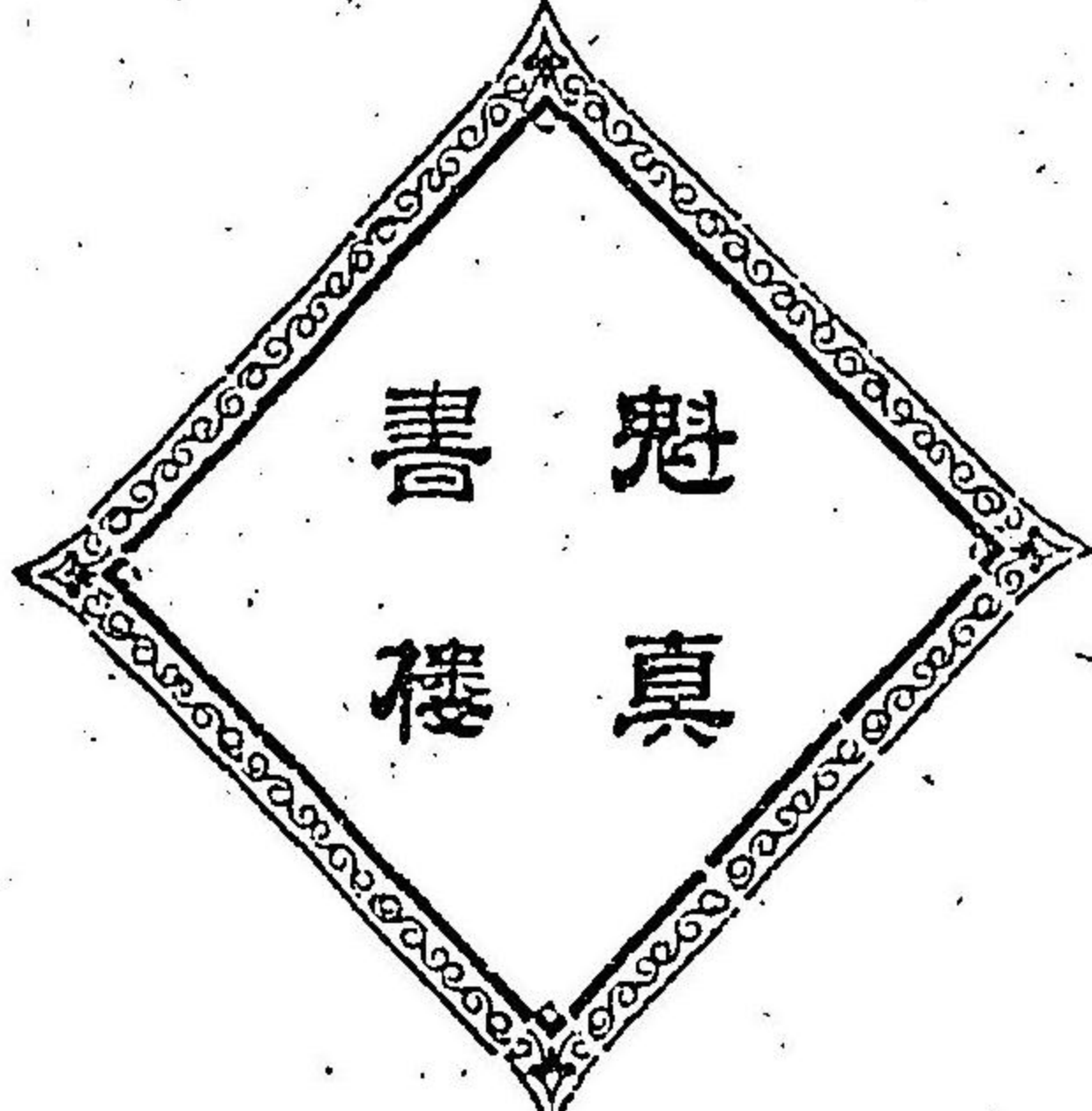
魁真樓 著述者兼
 發行所 東京市神田區錦町二丁目四番地
 井口松之助

岡崎屋 發行所
 東京市神田區錦町二丁目四番地

印刷者 東京市京橋區西紺屋町廿六番地
 玉村秀橘

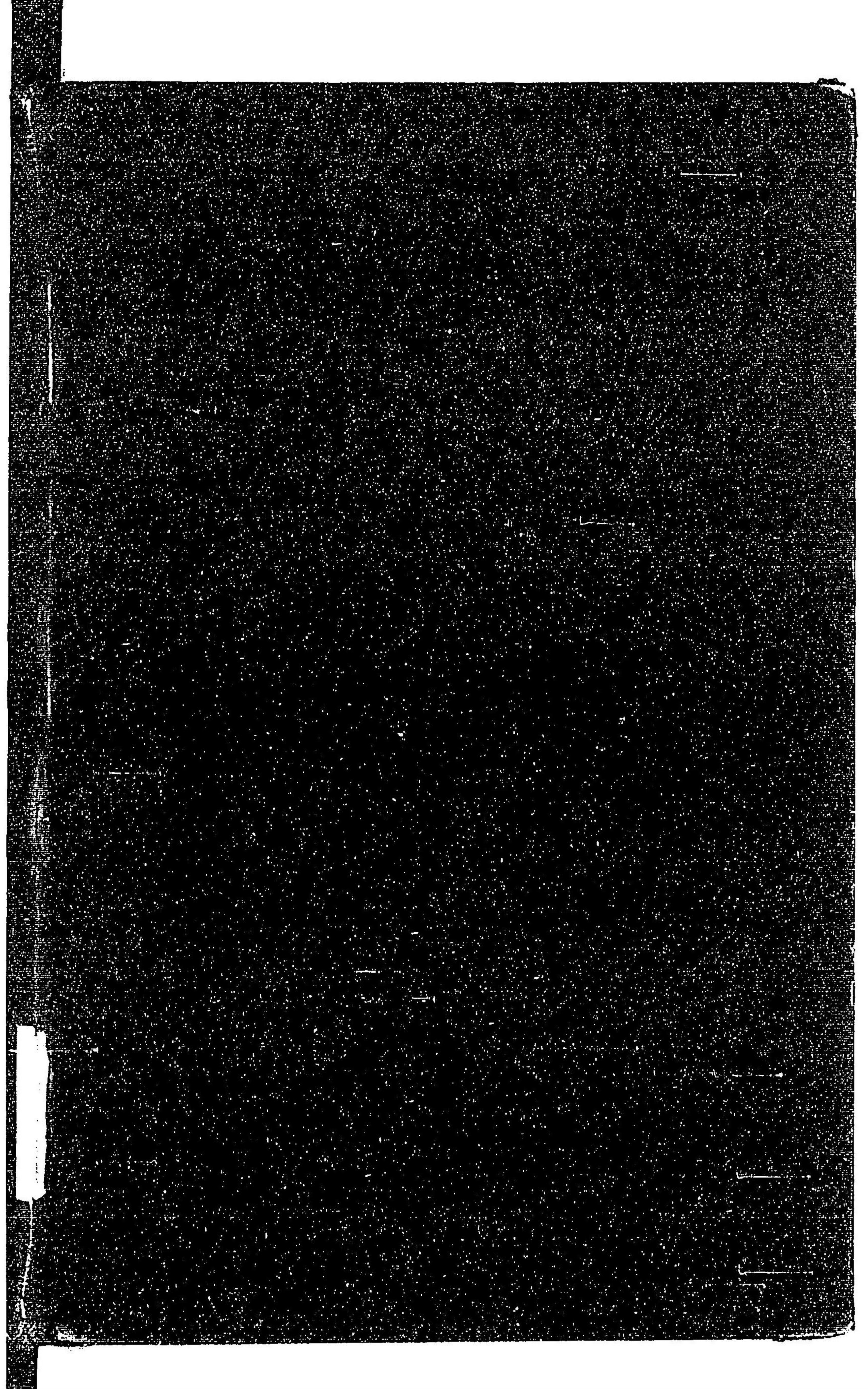
印刷所 東京市日本橋區通一丁目一角
 英舍

正價金五拾錢



魁真
書樓

83
1241



82

124

075308-000-1

82-124

柔術練習図解

井口 松之助 / 編

M32

CEM-0226



